こども青少年・教育委員会資料
平成24年3月15日
教育委員会事務局

「平成23年度横浜市教育意識調査」結果報告

教育委員会では「横浜教育ビジョン（平成18年10月策定）」及び「横浜市教育振興基本計画（平成23年1月策定）」に基づく、本市の教育施策に対する市民等の意識を把握するとともに、教育施策の展開をはじめ、今後の横浜の教育についての検討や推進を図る際の基礎資料とするため、「平成23年度横浜市教育意識調査」を実施いたしました。

1　調査概要

（1）調査実施時期　平成23年7月1日～7月15日

（2）調査対象　横浜市立学校の小学生（4～6年生）、中学生
横浜市立小中学校の保護者、教員、満20歳以上の市民

（3）回収結果

	配布数	回収数	回収率
小学生	1,200	1,141	95.08%
中学生	1,197	1,136	94.90%
保護者	3,555	2,916	82.03%
教員	2,000	1,413	70.65%
市民	2,000	953	47.65%
計	9,952	7,559	75.95%

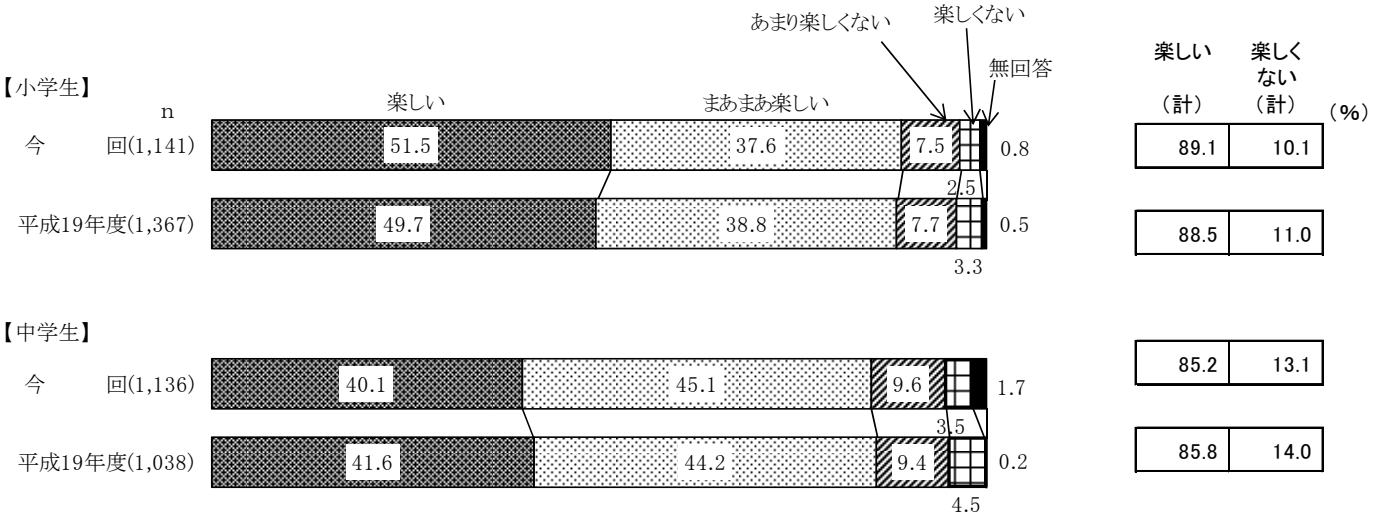
※詳細は「平成23年度横浜市教育意識調査報告書概要版」を参照ください。

2　主な調査結果

（1）　小学生、中学生とも9割近くが「学校に行くのは楽しい」と思っている。

小学生及び中学生に**学校に行くのが楽しいか**を聞いたところ、「楽しい」と「まあまあ楽しい」を合わせた**『楽しい（計）』**は**小学生で89.1%、中学生で85.2%**を占めている。このうち、小学生では「楽しい」が51.5%、中学生では40.1%となっている。一方、「楽しくない」と「あまり楽しくない」を合わせた**『楽しくない（計）』**は**小学生で10.1%、中学生で13.1%**となっている。

平成19年度調査と比較すると、**小学生では『楽しい（計）』が0.6ポイント増加**しており、**中学生では『楽しい（計）』が0.6ポイント減少**している。一方、**『楽しくない（計）』は小学生が0.9ポイント、中学生が0.9ポイント減少**している。



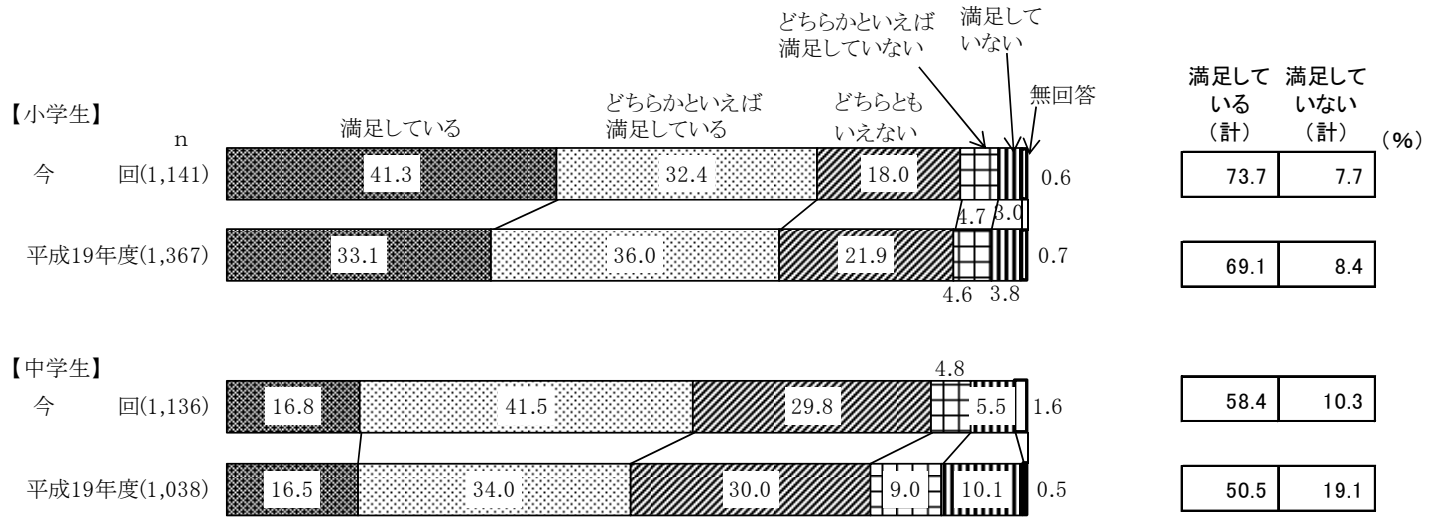
（２）教員の指導に対する満足度は、小学生 73.7%、中学生 58.4%、保護者 39.0%。

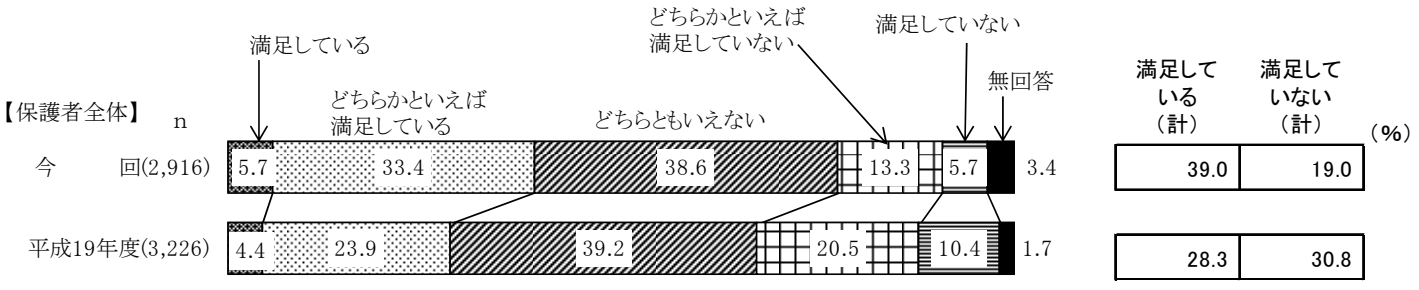
小学生及び中学生に**教員の指導に対する満足度**について聞いたところ、「満足している」と「どちらかといえば満足している」を合わせた**『満足している（計）』は小学生が 73.7%、中学生が 58.4%**を占めており、小学生のほうが中学生より 15.3 ポイント高くなっている。このうち「満足している」は小学生で 41.3%、中学生で 16.8%となっており、小学生が中学生より 24.5 ポイント高くなっている。一方、「満足していない」（小学生 3.0%、中学生 5.5%）と「どちらかといえば満足していない」（同 4.7%、同 4.8%）を合わせた**『満足していない（計）』**は**小学生で 7.7%、中学生で 10.3%**となっている。また、「どちらともいえない」は小学生で 18.0%、中学生で 29.8%となっている。

保護者は「満足している」（5.7%）と「どちらかといえば満足している」（33.4%）を合わせた**『満足している（計）』が 39.0%**となっている。一方、「満足していない」（5.7%）と「どちらかといえば満足していない」（13.3）を合わせた**『満足していない（計）』は 19.0%**となっている。また、「どちらともいえない」と答えた人が 38.6%となっている。

平成 19 年度調査と比較すると、**『満足している（計）』**が**小学生では 4.6 ポイント、中学生では 7.8 ポイント増加**している。一方、**『満足してない（計）』**は**小学生が 0.7 ポイント、中学生が 8.8 ポイント減少**している。

保護者では**『満足している（計）』が 10.7 ポイント増加**しており、**『満足していない（計）』**は **11.8 ポイント減少**している。

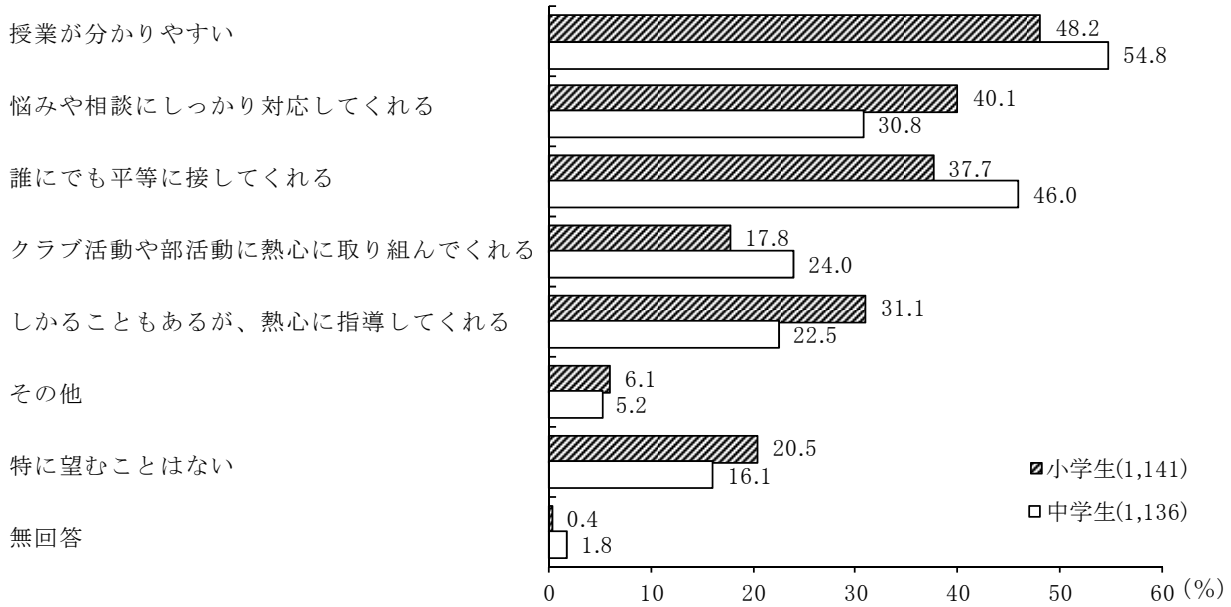




（３）小学生及び中学生が教員の指導に望むことは「授業が分かりやすい」が最も多い（複数回答）。

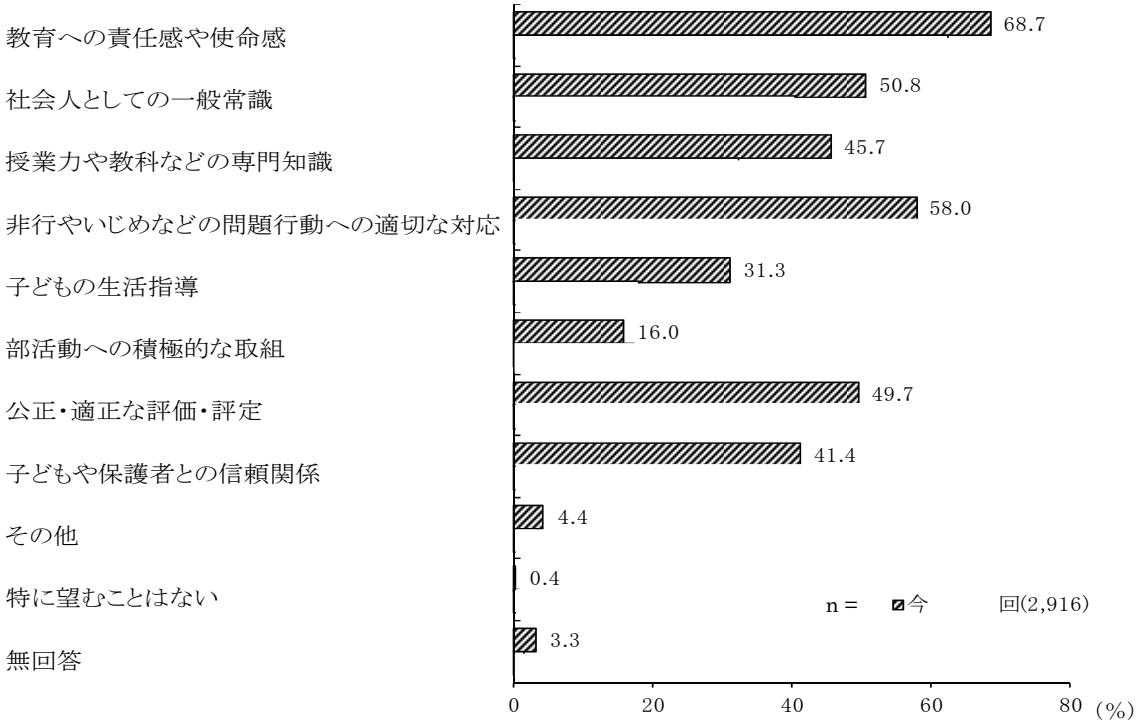
小学生及び中学生に**教員の指導に望むこと**を聞いたところ、小学生、中学生とも**「授業が分かりやすい」（小学生 48.2%、中学生 54.8%）が最も多かった。**

次いで、小学生では「悩みや相談にしっかり対応してくれる」（40.1%）、「誰にでも平等に接してくれる」（37.7%）、「しかることもあるが、熱心に指導してくれる」（31.1%）、「クラブ活動や部活動に熱心に取り組んでくれる」（17.8%）の順となっている。また、中学生では「誰にでも平等に接してくれる」（46.0%）、「悩みや相談にしっかり対応してくれる」（30.8%）、「クラブ活動や部活動に熱心に取り組んでくれる」（24.0%）、「しかることもあるが、熱心に指導してくれる」（22.5%）、の順となっており、「特に望むことはない」は 16.1%となっている。



（４）保護者が教員の指導に望むことは「教育への責任感や使命感」が最も多い（複数回答）。

保護者に**教員の指導に望むこと**を聞いたところ、**「教育への責任感や使命感」（68.7%）が最も多く**、次いで「非行やいじめなど問題行動への適切な対応」（58.0%）、「社会人としての一般常識」（50.8%）となっている。



※百分比（%）は有効回収数（回答者限定質問の場合は該当者数）を基数（ｎ）として算出し、小数第２位を四捨五入して表示しています。四捨五入の結果、各々の項目の数値の和と合計を示す数値とが一致しない場合があります。

平 成 ２３ 年 度
横 浜 市 教 育 意 識 調 査
報 告 書 概 要 版

平成 24 年３月

横 浜 市 教 育 委 員 会

－　目　次　－

第１章　調査のあらまし
　１　調査の背景・・・１
　２　調査の目的・・・１
　３　調査の対象・・・１
　４　対象者の抽出方法・・１
　５　調査の実施方法・・・２
　６　調査時期・・・２
　７　回収結果・・・２

第２章　主な調査結果
　１　小学生・中学生調査・・３
　２　保護者・教員・市民調査・・・13

参考資料
　調査項目の構成・・34

第１章　調査のあらまし

この概要版は、「横浜市教育意識調査報告書」の調査項目の中から、主な調査結果について抜粋し、作成したものです。

第１章　調査のあらまし

１．調査の背景

近年の社会の急激な変化の中で、多様化・高度化する市民の教育ニーズや期待に応え、新たな教育の実現に向けた取組として、本市では、教育基本法改正に先立って、平成 18 年度に、おおむね 10 年間を展望し、横浜の教育の目指すべき姿を描いた「横浜教育ビジョン」を定め、前期５か年に取り組むべき教育施策をまとめた「横浜教育ビジョン推進プログラム」を策定した。さらに、その後の平成 18 年 12 月の教育基本法改正、平成 20 年７月の国の「教育振興基本計画」の策定を受けて、平成 23 年１月には後期５か年にあたる平成 22 年度から平成 26 年度までを計画期間として「横浜市教育振興基本計画」を策定した。

２．調査の目的

本調査は、「横浜教育ビジョン」及び「横浜市教育振興基本計画」に基づく、本市の教育施策に対する市民の意識を把握し、教育施策の展開をはじめ、今後の横浜の教育について検討するための基礎資料とする。

３．調査の対象

○横浜市立学校の小学生（４～６年生）、中学生
○横浜市立小・中学校児童・生徒の保護者、学校長・教員
○市内に居住する満 20 歳以上の市民

対　象　者	対　象　数
小学生（４～６年生）	１，２００人
中　学　生	１，１９７人
保　護　者	３，５５５人
教　　員	２，０００人*
市　　民	２，０００人
合　　計	９，９５２人

＊学校長 200 人（小学校 130 人、中学校 70 人）を含む。

【調査対象の範囲】

市民については、日本国民である横浜市民のみを対象としたが、小・中学生及び保護者については、市立の小中学校に通う外国籍の児童・生徒及びその保護者についても対象として含めた。

４．対象者の抽出方法

○「小・中学生」と「保護者」は、学校基本調査における小学校４～６年生及び中学生の児童生徒数の行政区別構成比を基に、調査対象となるクラス数を行政区別に算出し、対象校及び対象クラスを無作為抽出した。

○「教員」のうち、学校長については小・中学校のクラスの行政区別構成比を基に、教員名簿から小学校長から 130 人、中学校長から 70 人を無作為抽出した。その他の教員については、小・中学校のクラスの行政区別構成比を基に、対象教員数を算出し、教員名簿から無作為抽出した。

○「市民」は、住民基本台帳を基に、小学校１年生から中学校３年生に相当する年齢の児童生徒のいる世帯を抽出対象から除いた後、満 20 歳以上の市民を無作為抽出した。

５．調査の実施方法

○小・中学生は、クラス単位での集団調査として、教育委員会事務局から各学校あてに送付し、調査票記入後（無記名）、回答者本人が密封封筒に入れたものを回収した。

○保護者は、クラス単位での集団調査として、教育委員会事務局から各学校あてに送付し、小・中学生が調査票を持ち帰り、保護者が調査票記入後（無記名）、密封封筒に入れたものを、小・中学生を通じて回収した。

○教員は、教育委員会事務局から各教員あてに送付し、調査票記入後（無記名）、回答者本人が密封封筒に入れたものを回収した。

○市民は、教育委員会事務局から郵送にて各対象者に送付し、調査票記入後（無記名）、返送用封筒にて郵送回収した。

６．調査時期

平成 23 年７月１日～７月 15 日（市民については、ハガキ督促１回あり）

７．回収結果

	対象者数	有効回収数	有効回収率
小 学 生	１，２００人	１，１４１人	９５．０８％
中 学 生	１，１９７人	１，１３６人	９４．９０％
保 護 者	３，５５５人	２，９１６人	８２．０３％
教　　員	２，０００人	１，４１３人	７０．６５％
市　　民	２，０００人	９５３人	４７．６５％
計	９，９５２人	７，５５８人	７５．９４％

＜この報告書を読む際の注意＞

１）百分比（％）は有効回収数（回答者限定質問の場合は該当者数）を基数（ｎ）として算出し、小数第２位を四捨五入して表示した。四捨五入の結果、各々の項目の数値の和と合計を示す数値とが一致しない場合がある。

２）複数回答の設問では、回答率の合計は 100.0％を超える場合がある。

３）図表中の「0.0」は回答率が 0.05％未満の場合、「－」は回答者が皆無の場合を示す。

４）一部の図表では、対比を明確にするために選択肢の順序を入れ替えている。

第２章　主な調査結果

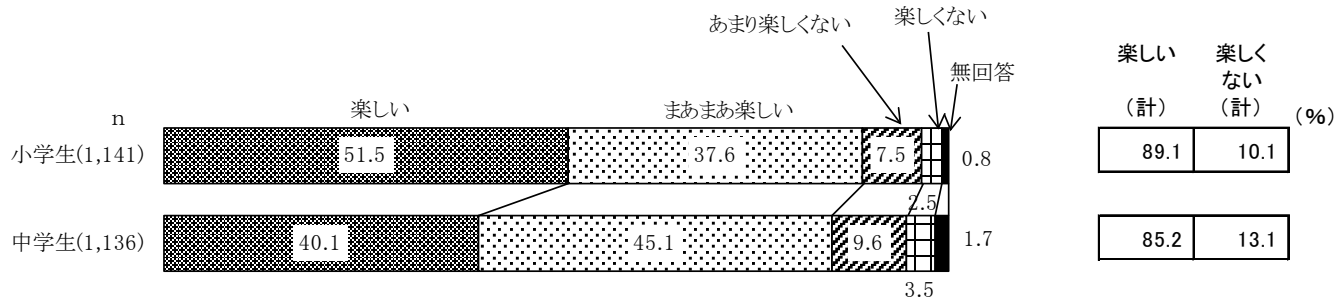
第２章　主な調査結果

１．小学生・中学生調査

（1）　学校に行くのが楽しいか

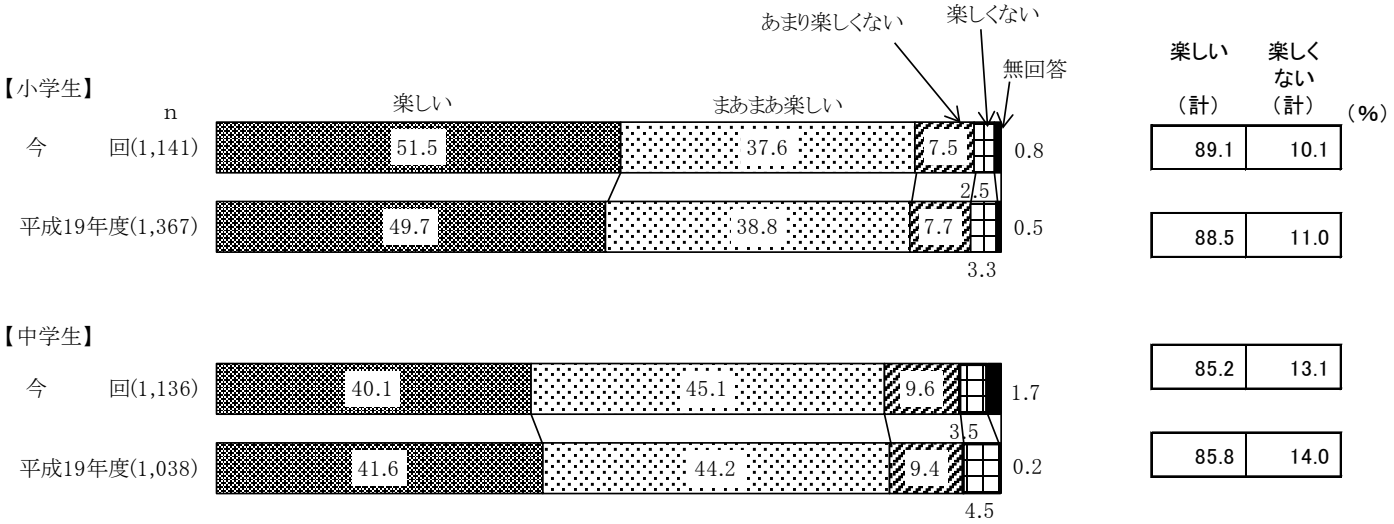
学校に行くのが楽しいかを聞いたところ、「楽しい」と「まあまあ楽しい」を合わせた『楽しい（計)』は小学生で 89.1%、中学生で 85.2%を占めている。このうち、小学生では「楽しい」が 51.5%、中学生では 40.1%となっている。

一方、「楽しくない」と「あまり楽しくない」を合わせた『楽しくない（計)』は小学生で 10.1%、中学生で 13.1%となっている。



平成 19 年度調査と比較すると、小学生では『楽しい（計)』が 0.6 ポイント増加しており、中学生では『楽しい（計)』が 0.6 ポイント減少している。

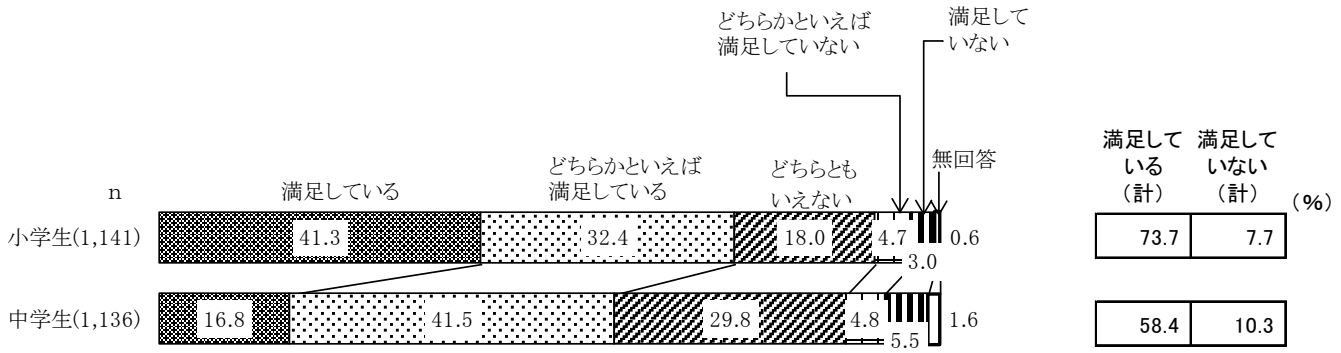
一方、『楽しくない（計)』は小学生が 0.9 ポイント、中学生が 0.9 ポイント減少している。



（2） 教員の指導に対する満足度

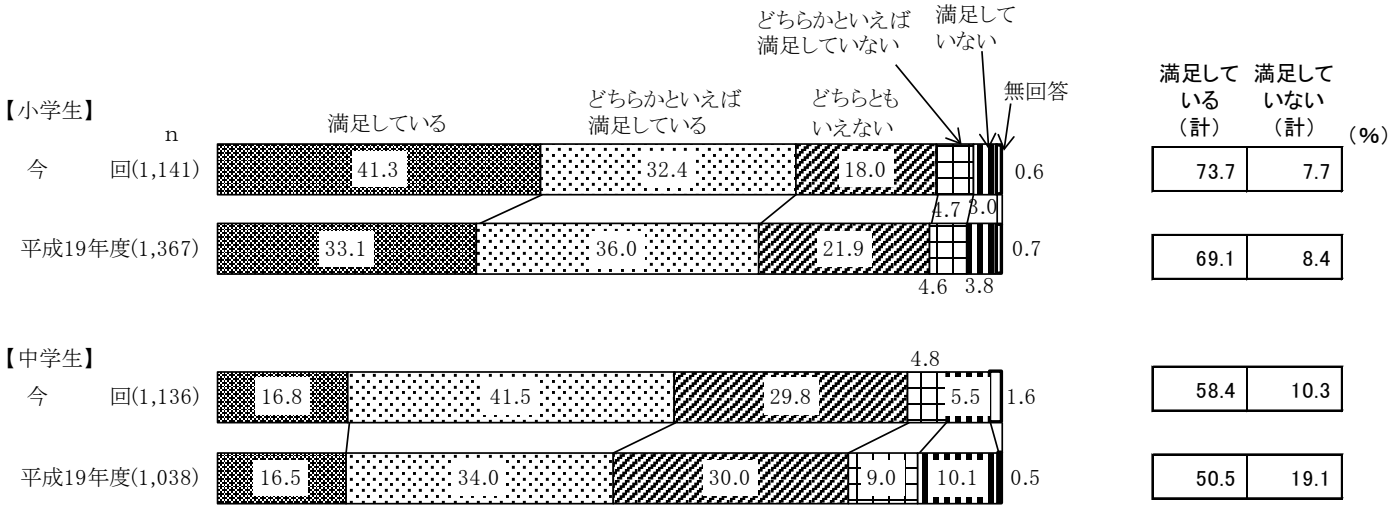
教員の指導に対する満足度について聞いたところ、「満足している」と「どちらかといえば満足している」を合わせた『満足している（計）』は小学生が 73.7%、中学生が 58.4%を占めており、小学生のほうが中学生より 15.3 ポイント高くなっている。このうち「満足している」は小学生で 41.3%、中学生で 16.8%となっており、小学生が中学生より 24.5 ポイント高くなっている。

一方、「満足していない」（小学生 3.0%、中学生 5.5%）と「どちらかといえば満足していない」（同 4.7%、同 4.8%）を合わせた『満足していない（計）』は小学生で 7.7%、中学生で 10.3%となっている。また、「どちらともいえない」は小学生で 18.0%、中学生で 29.8%となっている。



平成 19 年度調査と比較すると、『満足している（計）』が小学生では 4.6 ポイント、中学生では 7.9 ポイント増加している。

一方、『満足してない（計）』は小学生が 0.7 ポイント、中学生が 8.8 ポイント減少している。



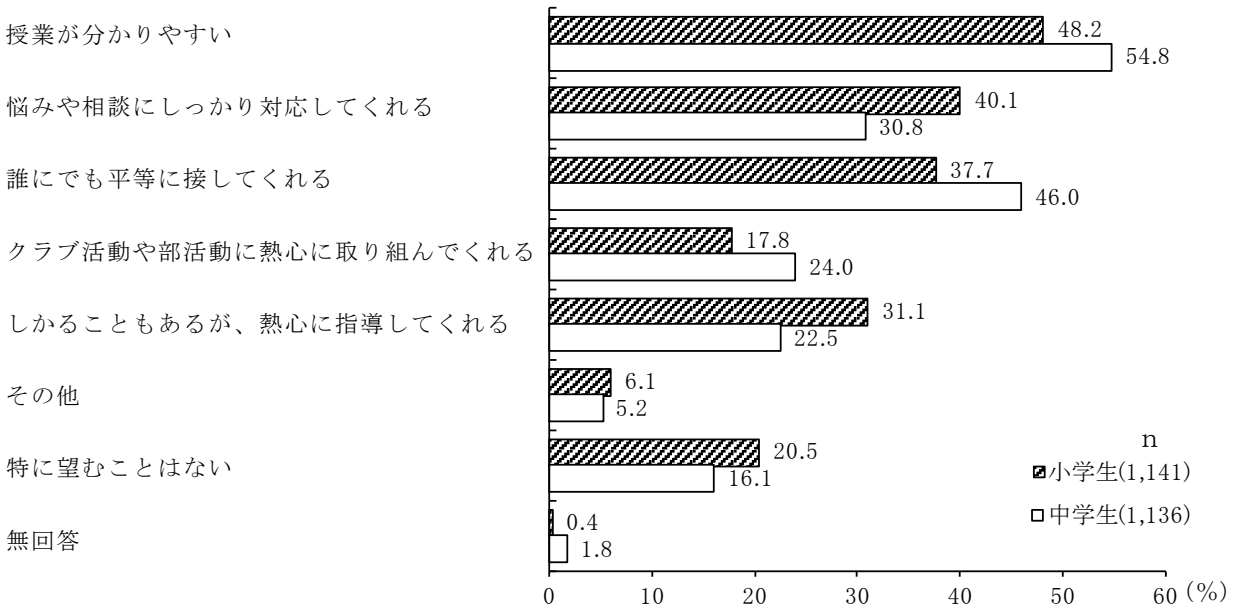
（３） 教員の指導に望むこと（複数回答）

教員の指導に望むことを聞いたところ、小学生、中学生とも「授業が分かりやすい」（小学生 48.2%、中学生 54.8%）が最も多かった。

次いで、小学生では「悩みや相談にしっかり対応してくれる」（40.1%）、「誰にでも平等に接してくれる」（37.7%）、「しかることもあるが、熱心に指導してくれる」（31.1%）、「クラブ活動や部活動に熱心に取り組んでくれる」（17.8%）の順となっている。

また、中学生では「誰にでも平等に接してくれる」（46.0%）、「悩みや相談にしっかり対応してくれる」（30.8%）、「クラブ活動や部活動に熱心に取り組んでくれる」（24.0%）、「しかることもあるが、熱心に指導してくれる」（22.5%）の順となっており、「特に望むことはない」は 16.1%となっている。

小学生と中学生を比べると、小学生では「悩みや相談にしっかり対応してくれる」が 9.3 ポイント、「しかることもあるが、熱心に指導してくれる」が 8.6 ポイントそれぞれ中学生を上回っている。一方、中学生では、「授業が分かりやすい」が 6.6 ポイント、「誰にでも平等に接してくれる」が 8.3 ポイント、「クラブ活動や部活動に熱心に取り組んでくれる」が 6.2 ポイントそれぞれ小学生を上回っている。

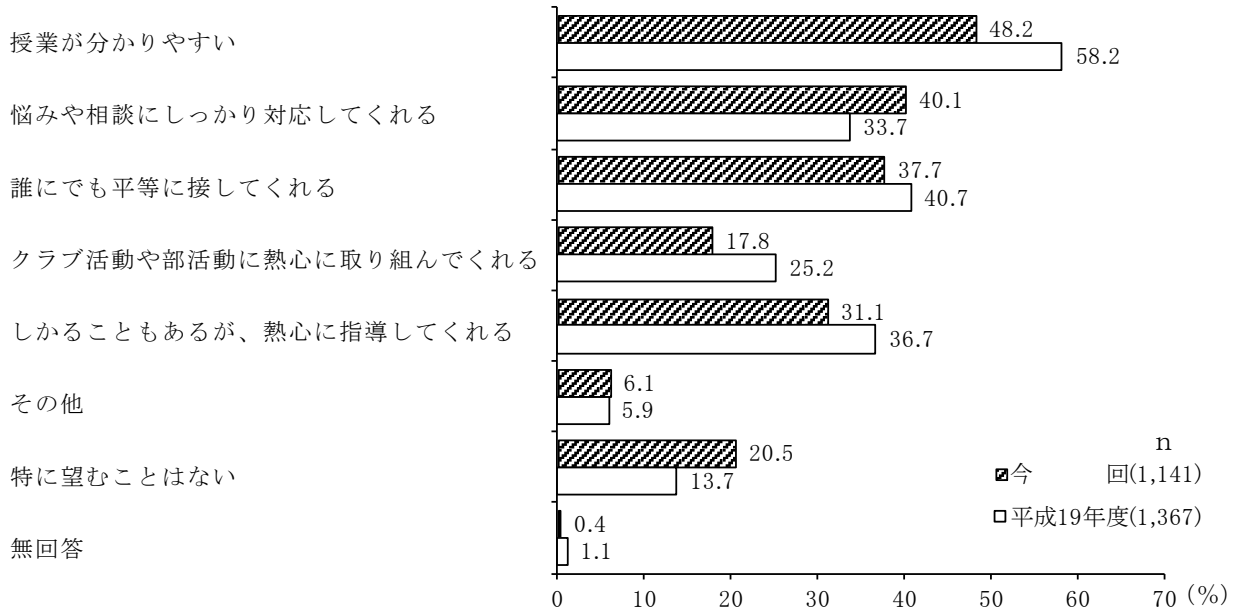


小学生について平成 19 年度調査と比較すると、「授業が分かりやすい」が 10.0 ポイント、「クラブ活動や部活動に熱心に取り組んでくれる」が 7.4 ポイント、「しかることもあるが、熱心に指導してくれる」が 5.6 ポイント、「誰にでも平等に接してくれる」が 3.0 ポイント、減少している。

一方、「悩みや相談にしっかり対応してくれる」が 6.4 ポイント増加している。

また、「特に望むことはない」は 6.8 ポイント増加している。

【小学生】

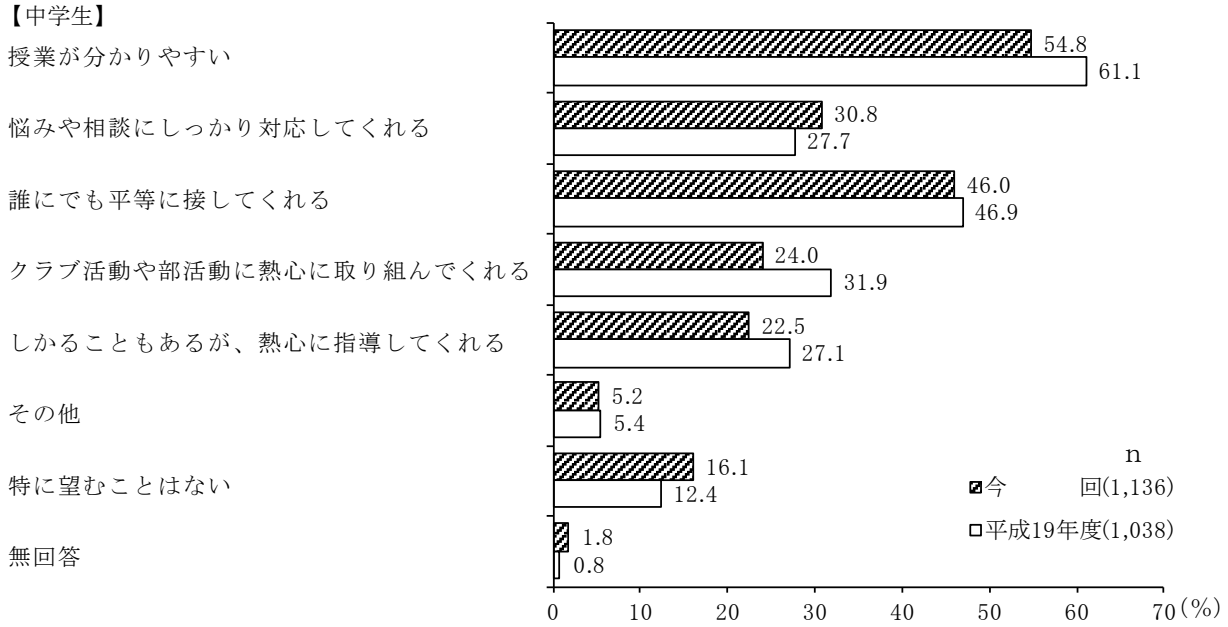


中学生について平成 19 年度調査と比較すると、「授業が分かりやすい」が 6.3 ポイント、「クラブ活動や部活動に熱心に取り組んでくれる」が 7.9 ポイント、「しかることもあるが、熱心に指導してくれる」が 4.6 ポイント、「誰にでも平等に接してくれる」が 0.9 ポイント、減少している。

一方、「悩みや相談にしっかり対応してくれる」が 3.1 ポイント増加している。

また、「特に望むことはない」は 3.7 ポイント増加している。

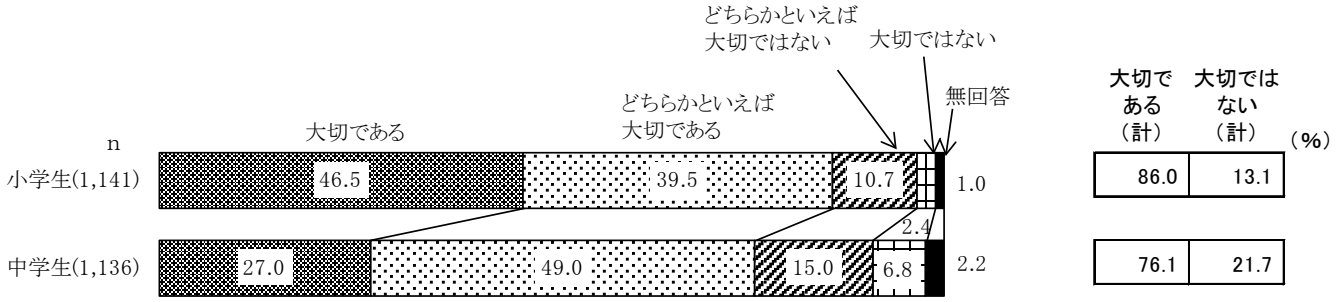
【中学生】



（4） 小中一貫教育は大切だと思うか

小中一貫教育は大切だと思うかについて聞いたところ、「大切である」（小学生 46.5%、中学生 27.0%）と「どちらかといえば大切である」（小学生 39.5%、中学生 49.0%）を合わせた『大切である（計）』は小学生で 86.0%、中学生で 76.1%となっており、小学生のほうが中学生より 9.9 ポイント高くなっている。このうち「大切である」は小学生で 46.5%、中学生で 27.0%となっており、小学生が中学生より 19.5 ポイント高くなっている。

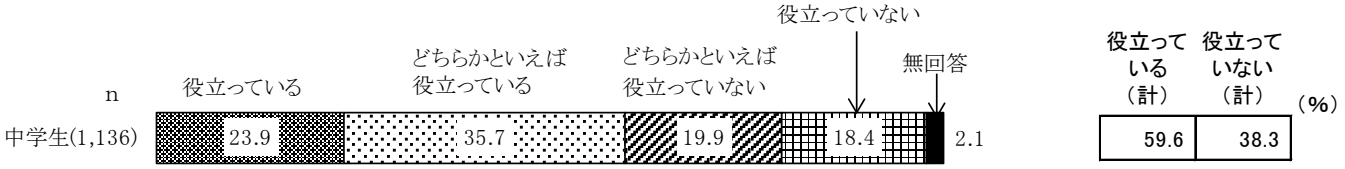
一方、「大切ではない」（小学生 2.4%、中学生 6.8%）と「どちらかといえば大切ではない」（小学生 10.7%、中学生 15.0%）を合わせた『大切ではない（計）』は小学生で 13.1%、中学生で 21.7%となっており、中学生が小学生より 8.6 ポイント高くなっている。



（5） 国際理解教室や英語活動の効果

国際理解教室や英語活動の効果について中学生に聞いたところ、「どちらかといえば役立っている」が 35.7%と最も多く、「役立っている」（23.9%）を合わせた『役立っている（計）』は 59.6%となっている。

一方、「役立っていない」（18.4%）と「どちらかといえば役立っていない」（19.9%）を合わせた『役立っていない（計）』は 38.3%となっている。



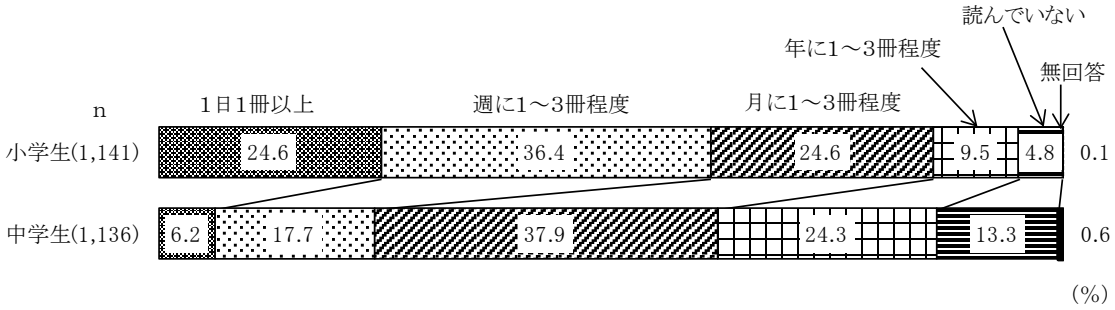
（６） 読書の習慣

読書冊数について聞いたところ、小学生では「週に１～３冊程度」が 36.4%で最も多く、次いで「１日１冊以上」及び「月に１～３冊程度」（ともに 24.6%）、「年に１～３冊程度」（9.5%）となっている。

中学生では「月に１～３冊程度」が 37.9%で最も多く、次いで「年に１～３冊程度」（24.3%）、「週に１～３冊程度」（17.7%）、「１日１冊以上」（6.2%）となっている。

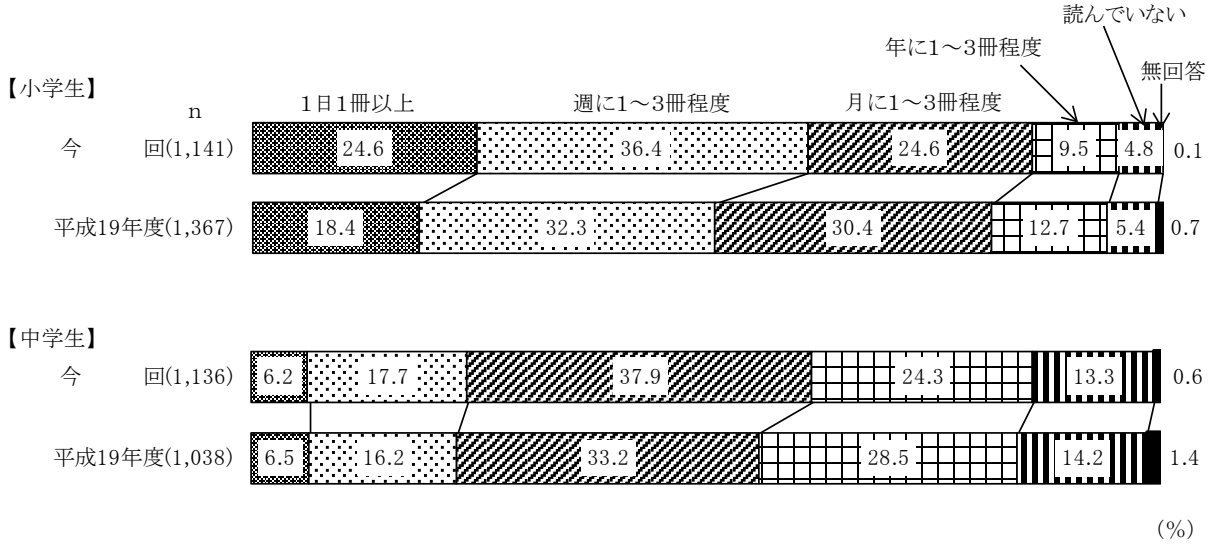
小学生と中学生を比べると、小学生では、「１日１冊以上」で 18.4 ポイント、「週に１～３冊程度」で 18.7 ポイントそれぞれ中学生を上回っている。一方中学生では、「月に１～３冊程度」で 13.3 ポイント、「年に１～３冊程度」で 14.8 ポイントそれぞれ小学生を上回っている。

また、「読んでいない」と答えた比率は中学生（13.3%）のほうが小学生（4.8%）を 8.5 ポイント上回っている。



平成 19 年度調査と比較すると、小学生は「１日１冊以上」が 6.2 ポイント、「週に１～３冊程度」が 4.1 ポイント増加しており、中学生では「１日１冊以上」が 0.3 ポイント減少しているものの「週に１～３冊程度」が 1.5 ポイント、「月に１～３冊程度」が 4.7 ポイント増加している。

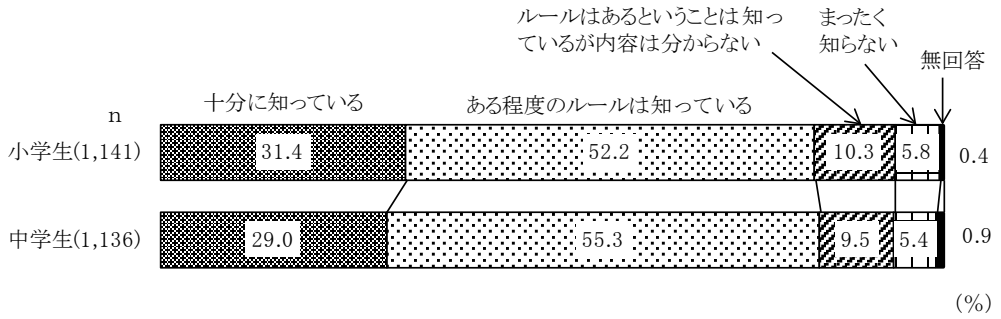
一方、「読んでいない」は小学生が 0.6 ポイント、中学生が 0.9 ポイント減少している。



（7） インターネットのモラル・マナーの理解度

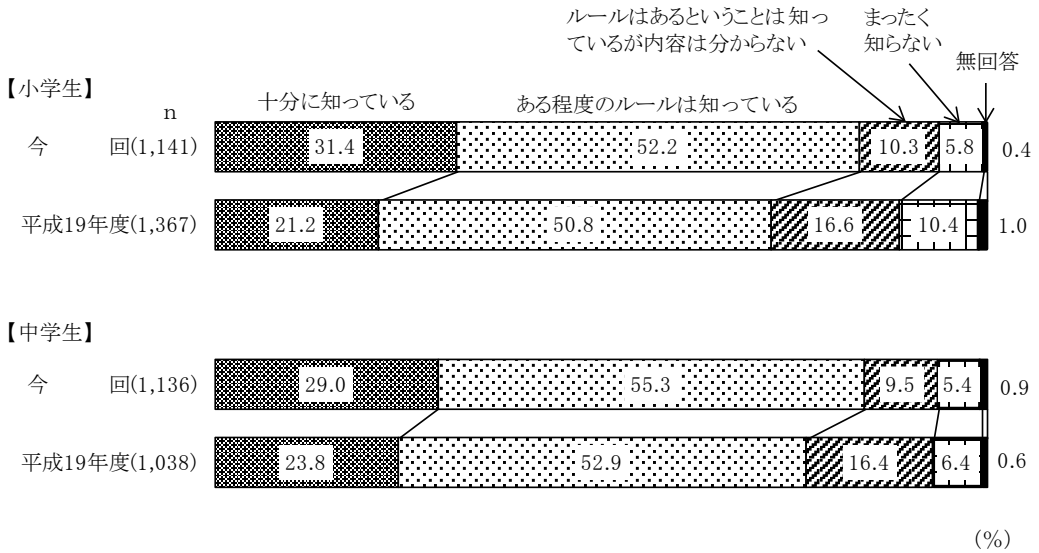
インターネットのモラル・マナーの理解度について聞いたところ、「十分に知っている」は小学生で31.4%、中学生で29.0%、「ある程度のルールは知っている」は小学生で52.2%、中学生で55.3%となっている。

一方、「ルールがあることは知っているが内容はわからない」は小学生で10.3%、中学生で9.5%で、「まったく知らない」は小学生で5.8%、中学生で5.4%となっている。



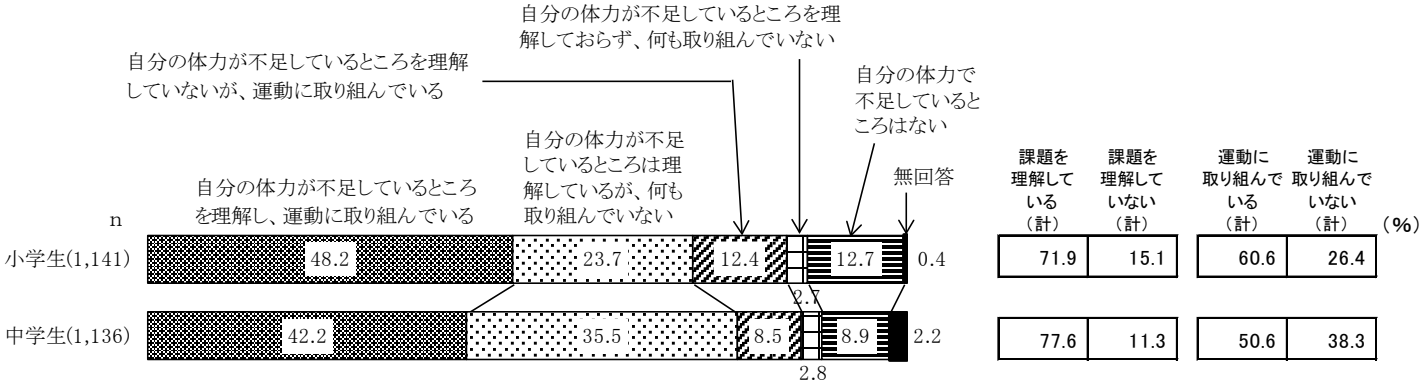
平成19年度調査と比較すると、「十分に知っている」は小学生で10.2ポイント、中学生で5.2ポイントの増加、「ある程度のルールは知っている」は小学生で1.4ポイント、中学生で2.4ポイント増加している。

また、「ルールがあることは知っているが内容はわからない」は小学生で6.3ポイント、中学生で6.9ポイントの減少、「まったく知らない」は小学生で4.6ポイント、中学生で1.0ポイント減少している。



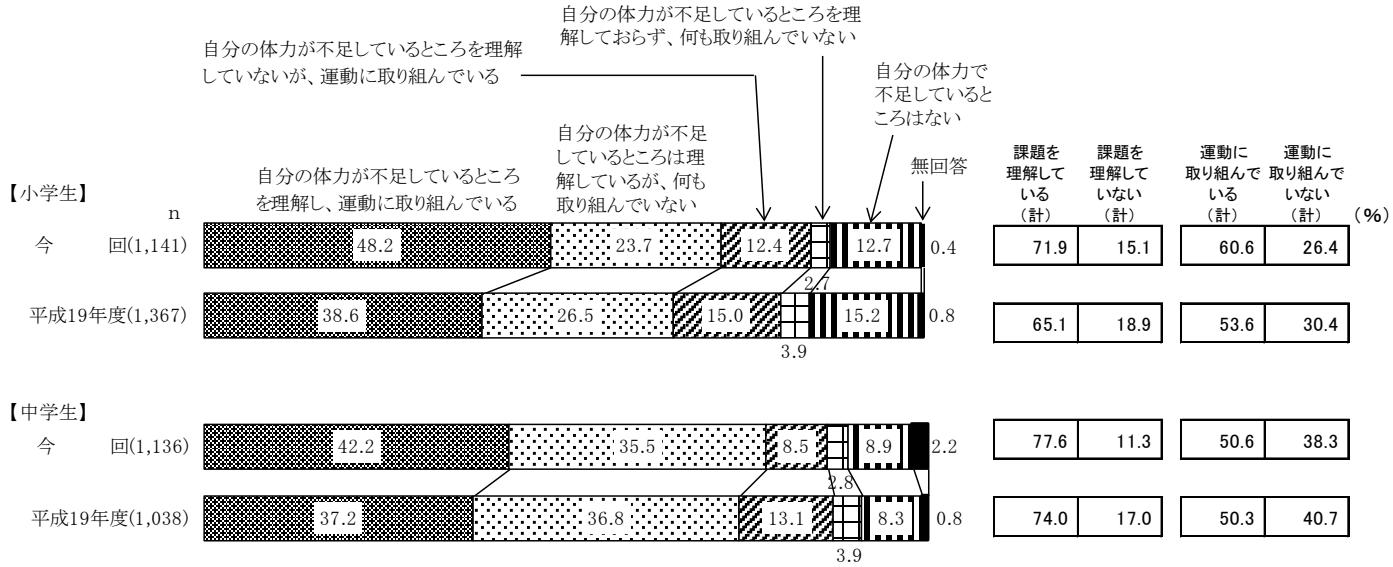
（８） 体力の課題の理解と取組

体力の課題の理解と取組について聞いたところ、小学生、中学生ともに「自分の体力が不足しているところを理解し、運動に取り組んでいる」（小学生 48.2%、中学生 42.2%）が最も多く、次いで「自分の体力が不足しているところは理解しているが、何も取り組んでいない」（小学生 23.7%、中学生 35.5%）、「自分の体力は不足していない」（小学生 12.7%、中学生 8.9%）、「自分の体力が不足しているところを理解していないが、運動に取り組んでいる」（小学生 12.4%、中学生 8.5%）、「自分の体力が不足しているところを理解しておらず、何も取り組んでもいない」（小学生 2.7%中学生 2.8%）の順となっている。



平成 19 年度調査と比較すると、『体力不足を理解している（計）』は小学生が 6.8 ポイント、中学生が 3.6 ポイント増加している。

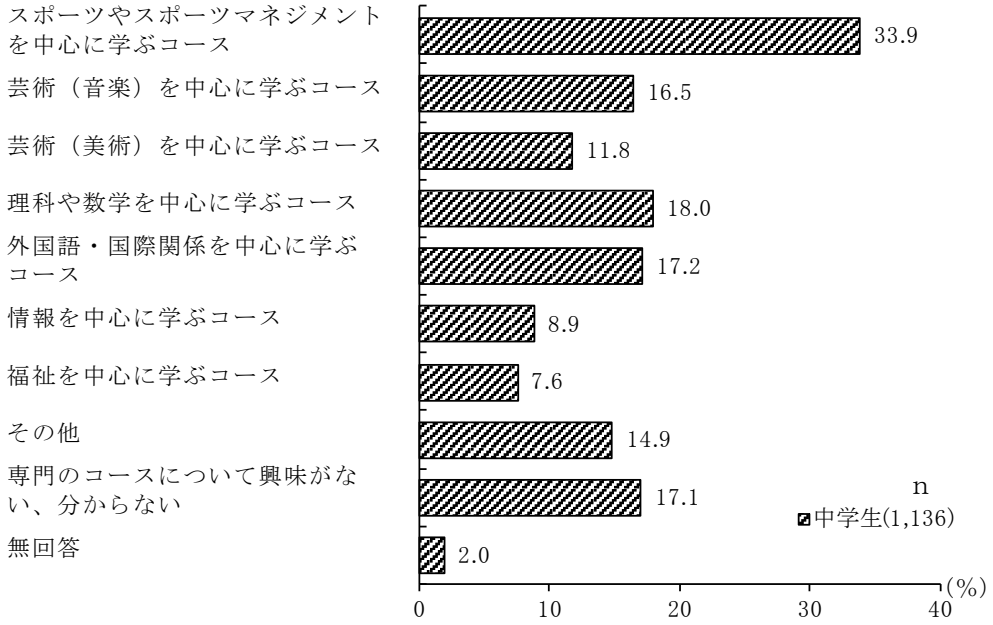
また、『運動に取り組んでいる（計）』は小学生が 7.0 ポイント、中学生が 0.3 ポイント増加している。



（９） 魅力を感じる高校の専門コース（複数回答）

魅力を感じる高校の専門コースを中学生に聞いたところ、「スポーツやスポーツマネジメントを専門に学ぶコース」が 33.9%で最も多く、次いで、「理科や数学を中心に学ぶコース」が 18.0%、「外国語・国際関係を中心に学ぶコース」が 17.2%となっている。

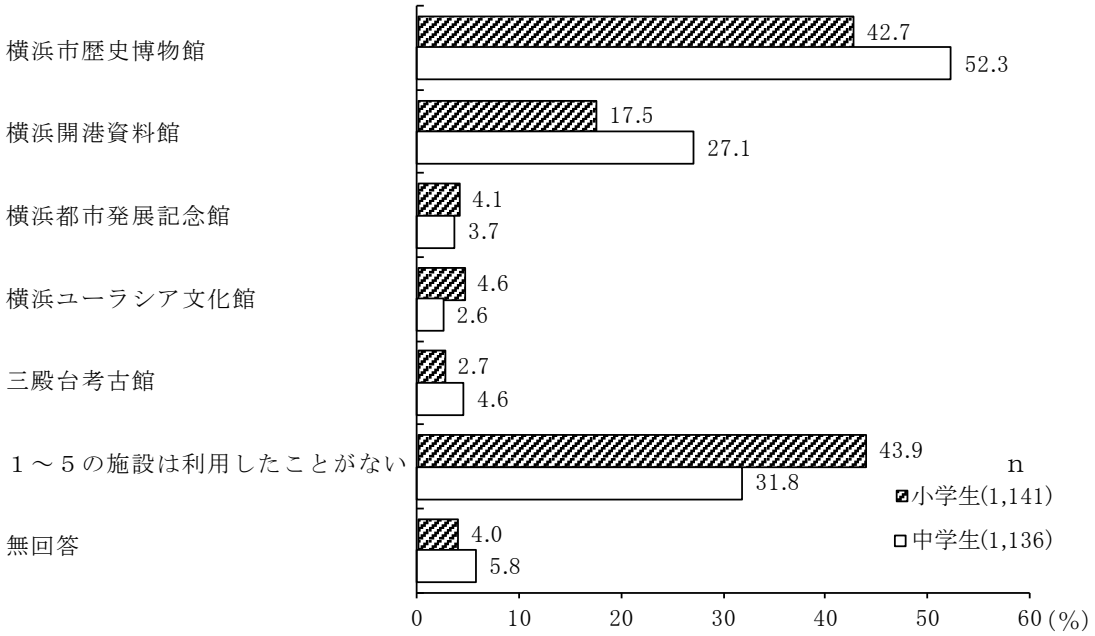
一方、「専門コースについて興味がない、分からない」は 17.1%となっている。



(10) 利用したことのある文化施設（複数回答）

利用したことのある文化施設を聞いたところ、小学生、中学生ともに「横浜市歴史博物館」（小学生 42.7%、中学生 52.3%）が最も多く、次いで「横浜開港資料館」（小学生 17.5%、中学生 27.1%）、「横浜都市発展記念館」（小学生 4.1%、中学生 3.7%）、「横浜ユーラシア文化館」（小学生 4.6%、中学生 2.6%）、「三殿台考古館」（小学生 2.7%、中学生 4.6%）となっている。

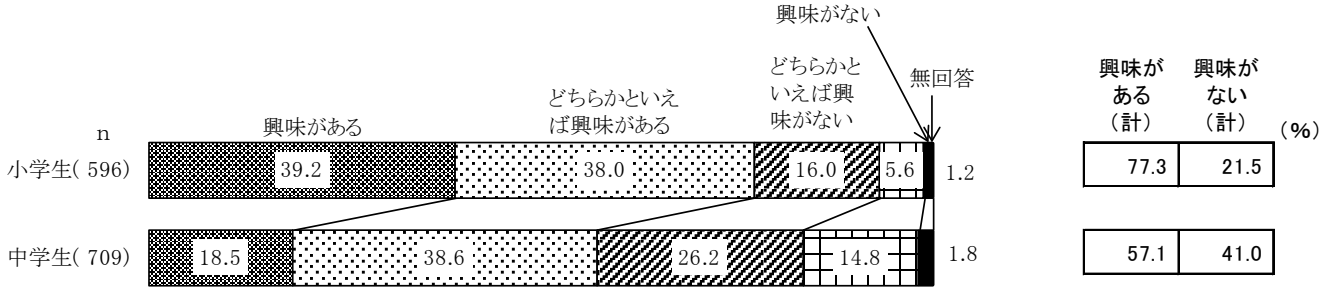
一方、「１～５の施設は利用したことがない」と回答したのは小学生で 43.9%、中学生で 31.8%であった。



(11)　文化施設に対する興味

文化施設をどう思うか聞いたところ、「興味がある」と「どちらかといえば興味がある」を合わせた『興味がある（計）』は小学生で 77.3%、中学生で 57.1%となっており、中学生が小学生を 20.2 ポイント下回っている。このうち「興味がある」は小学生で 39.2%と中学生（18.5%）の割合の倍以上となっている。

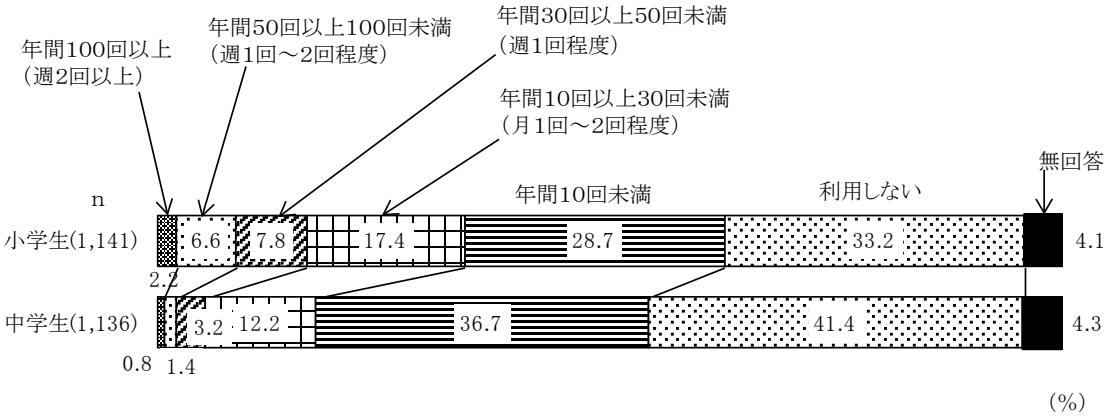
一方、「興味がない」（小学生 5.6%、中学生 14.8%）と「どちらかといえば興味がない」（小学生 16.0%、中学生 26.2%）を合わせた『興味がない（計）』は中学生（41.0%）のほうが小学生（21.5%）より 19.5 ポイント高くなっている。



(12)　市立図書館の利用頻度

市立図書館の利用頻度について聞いたところ、小学生、中学生ともに「年間 10 回未満」（小学生 28.7%、中学生 36.7%）が最も多く、以下「年間 10 回以上 30 回未満（月 1 回～2 回程度）」（小学生 17.4%、中学生 12.2%）、「年間 30 回以上 50 回未満（週 1 回程度）」（小学生 7.8%、中学生 3.2%）となっている。

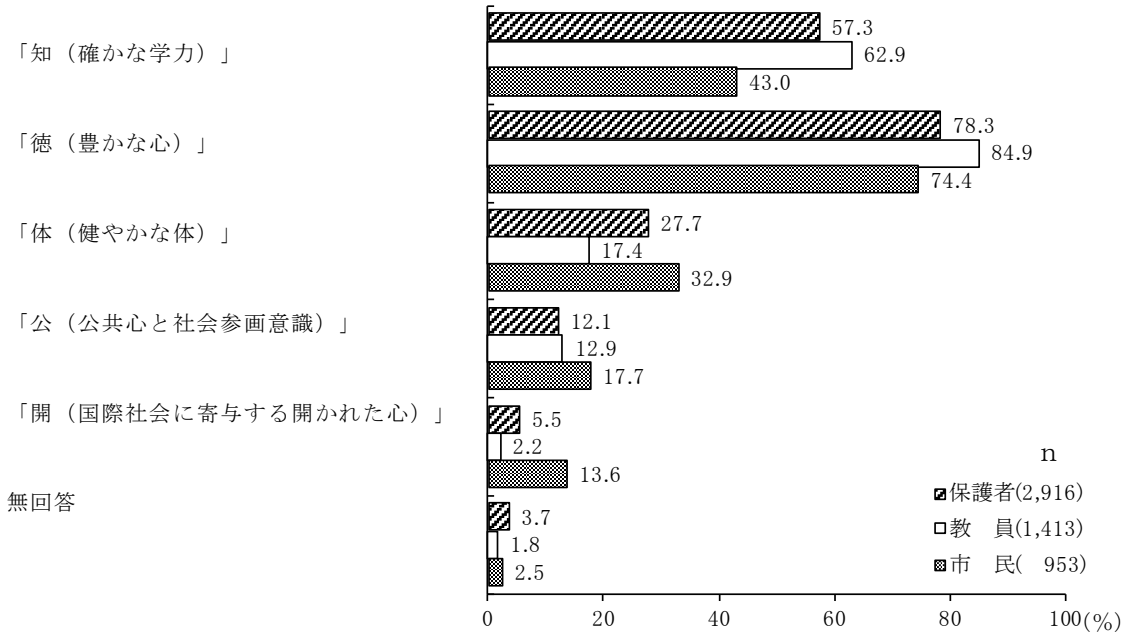
一方、「利用しない」と回答したのは小学生で 33.2%、中学生で 41.4%となっている。



２．保護者・教員・市民調査

（１） 学校教育で重要なこと（２つまで複数回答）

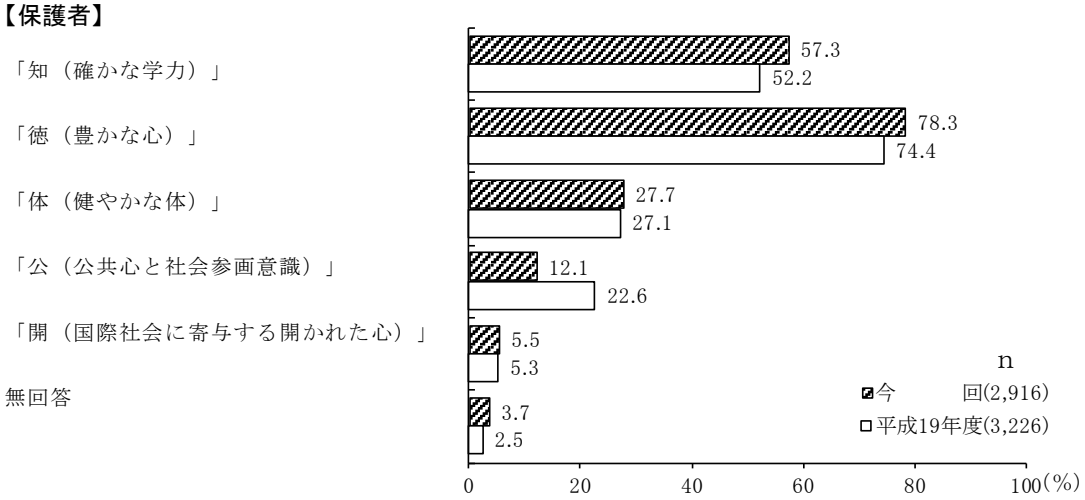
学校教育で重要なことを聞いたところ、保護者、教員、市民とも「徳（豊かな心）」（保護者 78.3%、教員 84.9%、市民 74.4%）が最も多く、次いで「知（確かな学力）」（保護者 57.3%、教員 62.9%、市民 43.0%）、「体（健やかな体）」（保護者 27.7%、教員 17.4%、市民 32.9%）、「公（公共心と社会参画意識）」（保護者 12.1%、教員 12.9%、市民 17.7%）、「開（国際社会に寄与する開かれた心）」（保護者 5.5%、教員 2.2%、市民 13.6%）の順となっている。



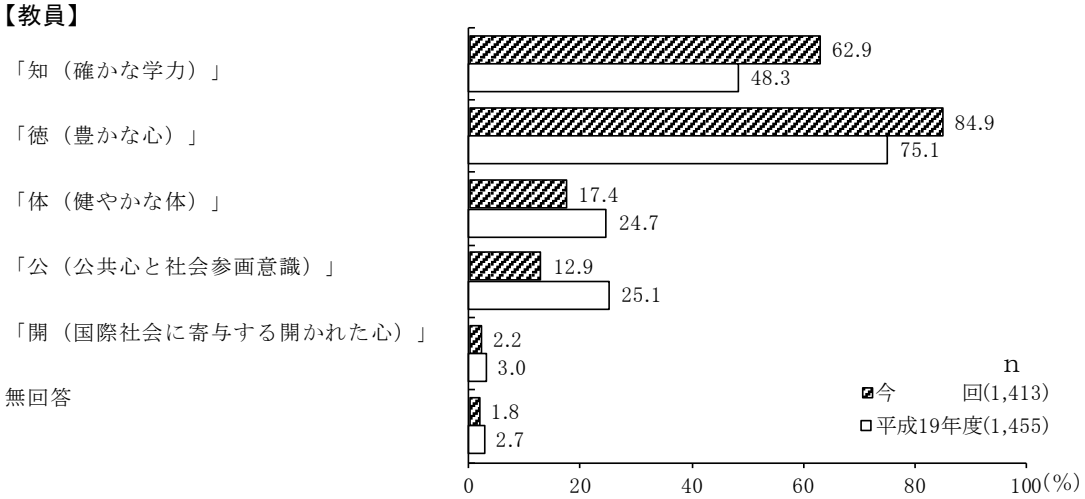
横浜市では、３つの基本である「知（確かな学力）」「徳（豊かな心）」「体（健やかな体）」と、２つの横浜らしさである「公（公共心と社会参画意識）」「開（国際社会に寄与する開かれた心）」を身に付けた、“横浜の子ども”を育んでいます。

平成 19 年度調査と比較すると、保護者では、「知（確かな学力）」が 5.1 ポイント増加し、「公（公共心と社会参画意識）」が 10.5 ポイント減少している。教員では、「知（確かな学力）」が 14.6 ポイント増加し、「公（公共心と社会参画意識）」が 12.2 ポイント減少している。市民では、「開（国際社会に寄与する開かれた心）」が 4.8 ポイント増加し、「公（公共心と社会参画意識）」が 9.4 ポイント減少している。

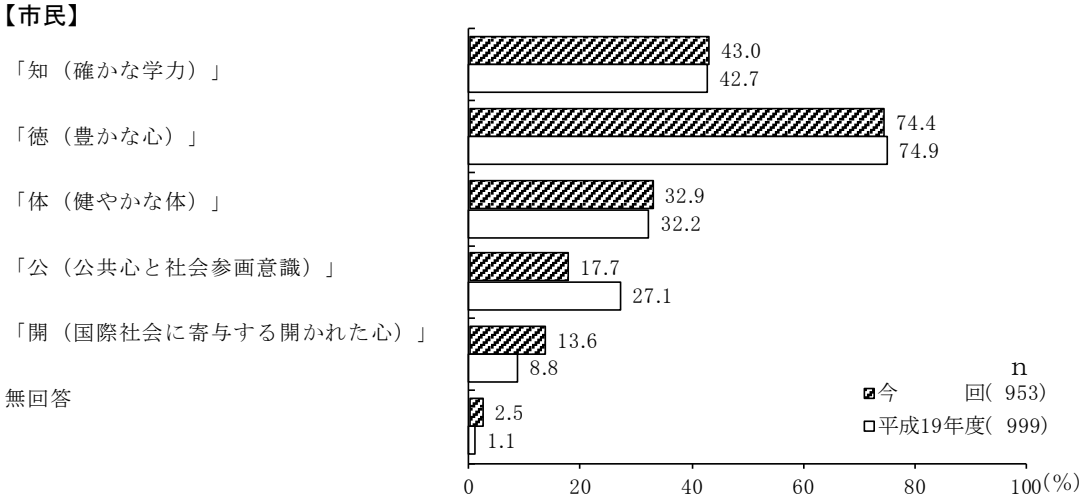
【保護者】



【教員】



【市民】

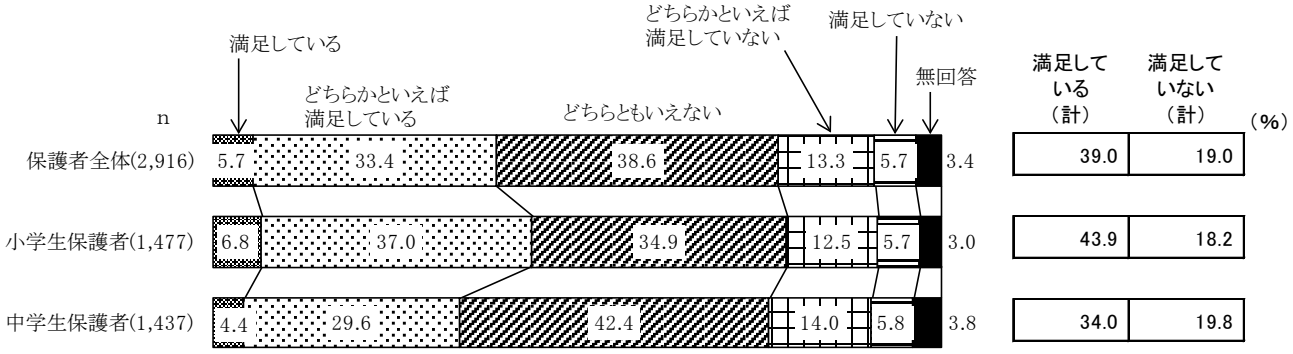


（２） 教員の指導に対する満足度

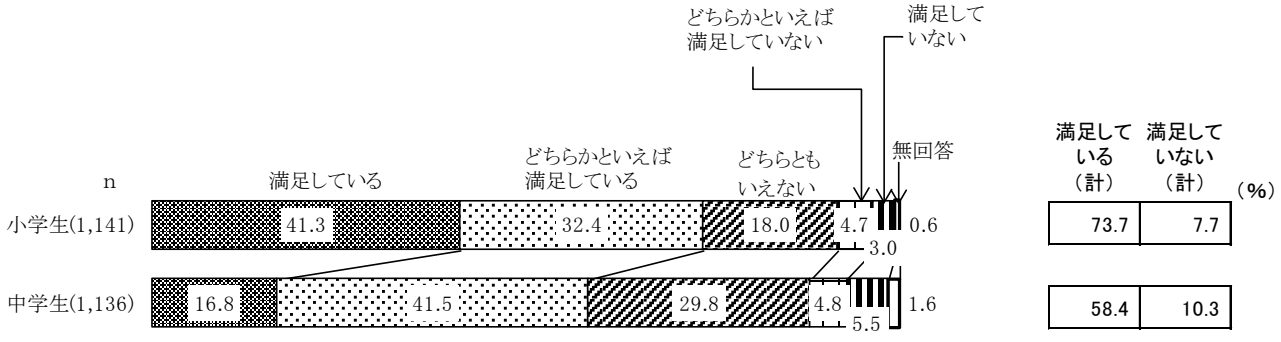
保護者に、教員の指導に対する満足度を聞いたところ、「満足している」（5.7%）と「どちらかといえば、満足している」（33.4%）を合わせた『満足している（計）』は 39.0%となっている。

『満足している（計）』を小学生保護者と中学生保護者で比較すると、小学生保護者（43.9%）の方が中学生保護者（34.0%）より 9.9 ポイント高くなっている。

一方、「満足していない」（5.7%）と「どちらかといえば、満足していない」（13.3%）を合わせた『満足していない（計）』は 19.0%となっている。また、「どちらともいえない」と答えた人が 38.6%となっている。

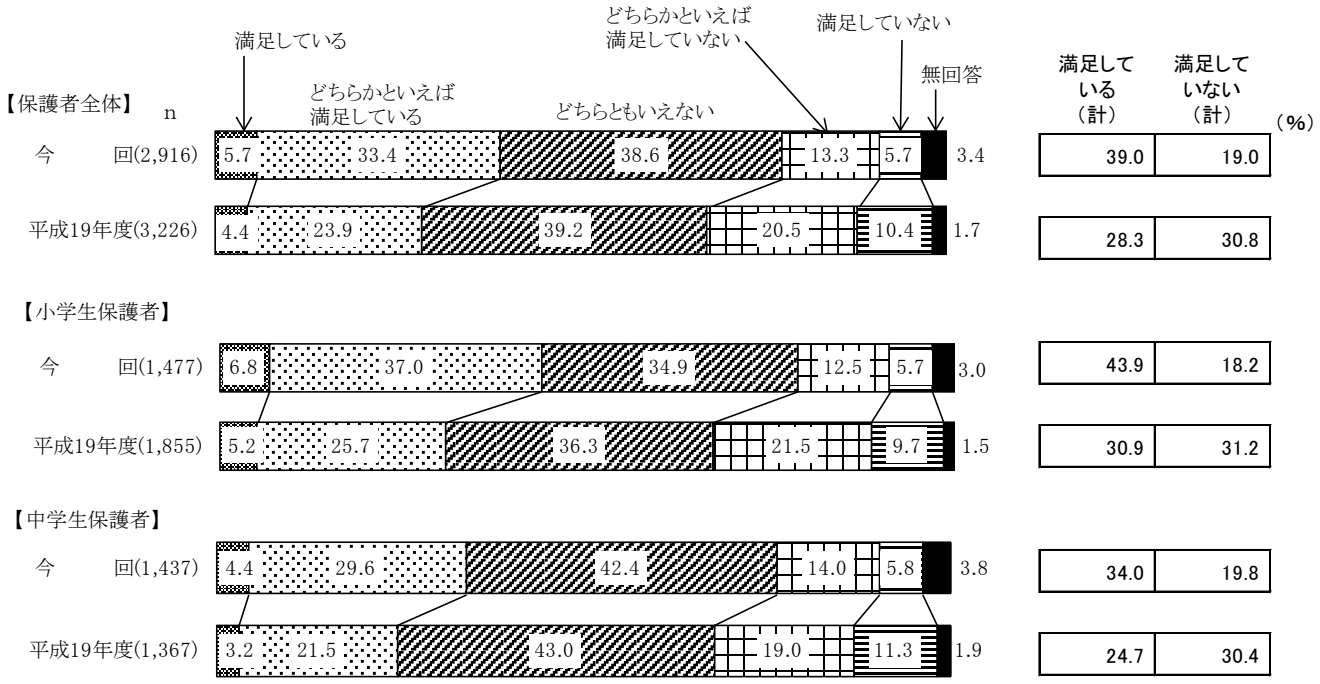


参考（小学生・中学生調査）教員の指導に対する満足度



平成 19 年度調査と比較すると、保護者全体では『満足している（計)』が 10.7 ポイント増加しており、小学生保護者と中学生保護者の別にみると、小学生保護者では 13.0 ポイント、中学生保護者では 9.3 ポイント増加している。

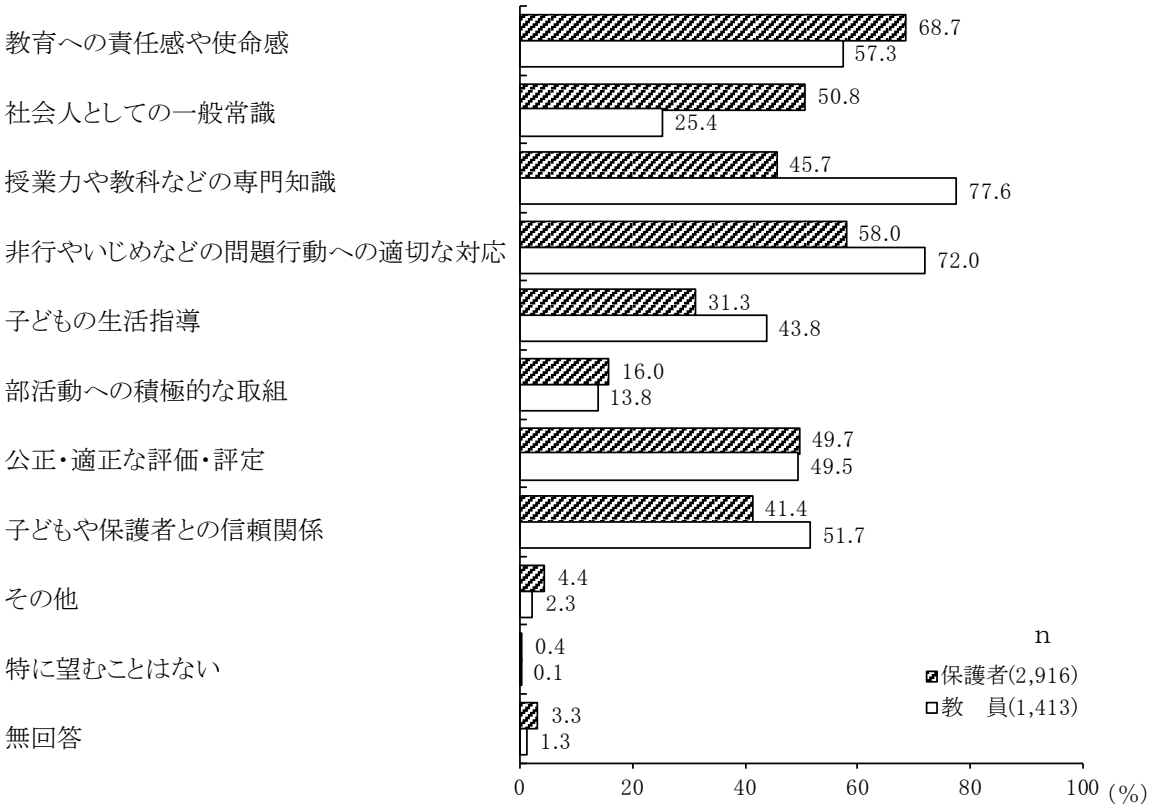
一方、『満足していない（計)』は小学生保護者では 13.0 ポイント、中学生保護者では 10.6 ポイント、保護者全体では 11.8 ポイント減少している。



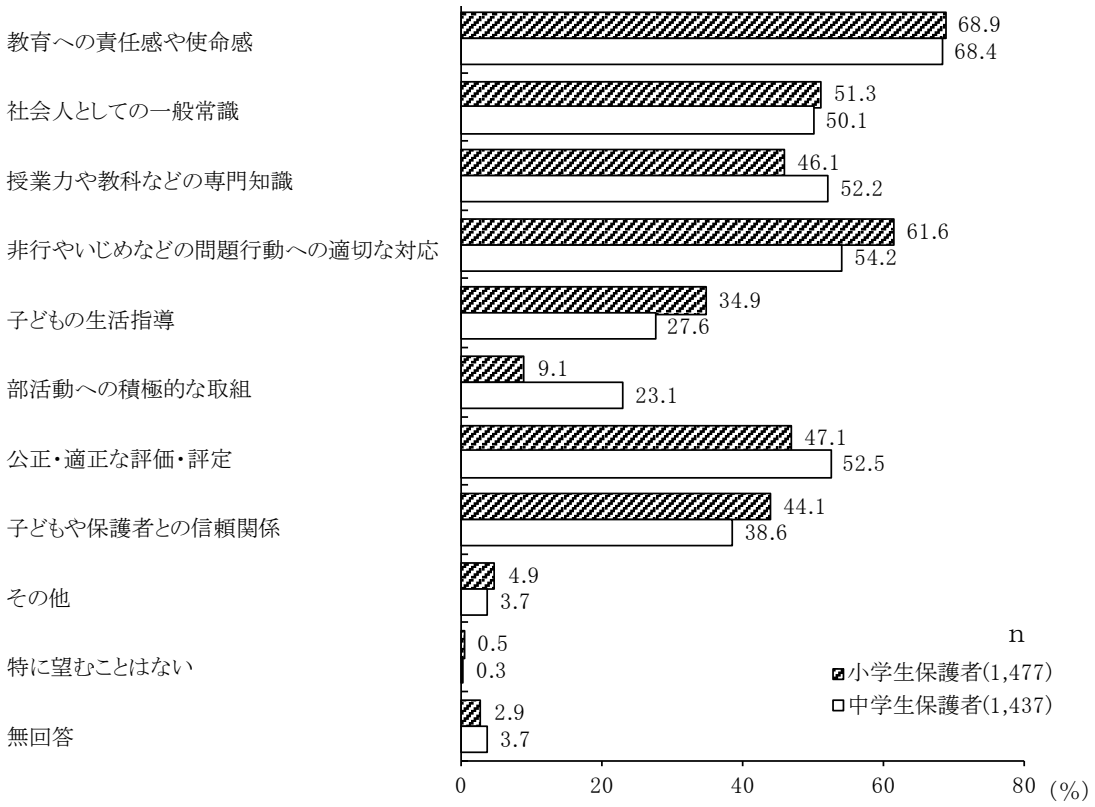
（３） 教員の指導に望むこと（複数回答）

教員の指導に望むこと（教員には「保護者が教員に望んでいると思うこと」）では、保護者は「教育への責任感や使命感」(68.7%)が最も多く、次いで「非行やいじめなど問題行動への適切な対応」(58.0%)、「社会人としての一般常識」（50.8%）となっている。

教員は、「授業力や教科などの専門知識」（77.6%）が最も多く、次いで「非行やいじめなど問題行動への適切な対応」（72.0%）、「教育への責任感や使命感」（57.3%）、「子どもや保護者との信頼関係」（51.7%）となっている。

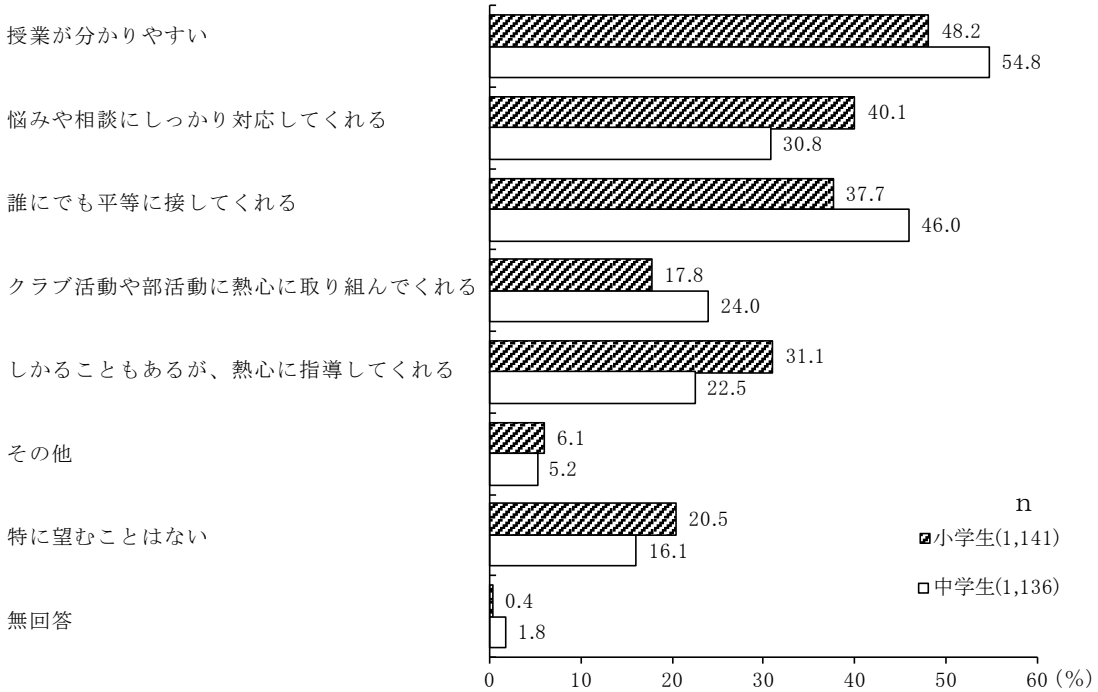


保護者について、小学生保護者、中学生保護者別にみると、「部活動への積極的な取組」は中学生保護者（23.1%）のほうが小学生保護者（9.1%）よりも 14.0 ポイント高くなっている。

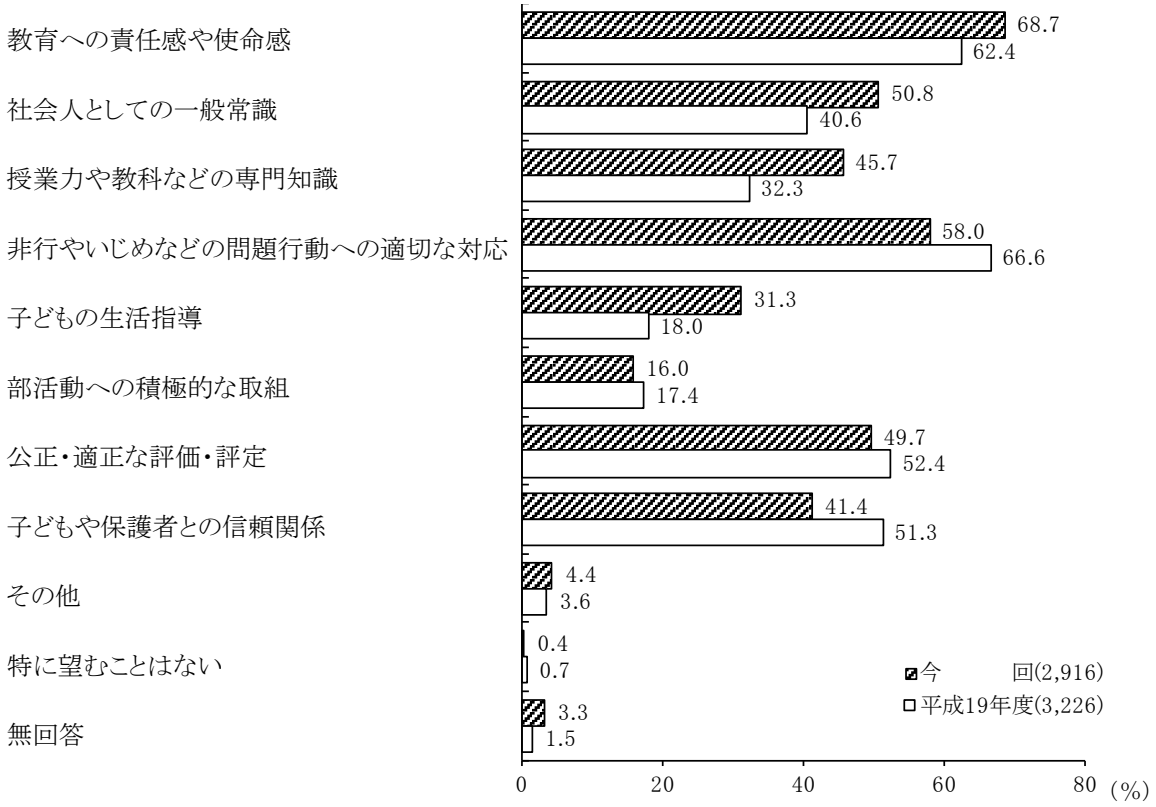


小学生・中学生調査での「教員の指導に望むこと」の結果をみると、小学生、中学生とも「授業が分かりやすい」が最も多い。

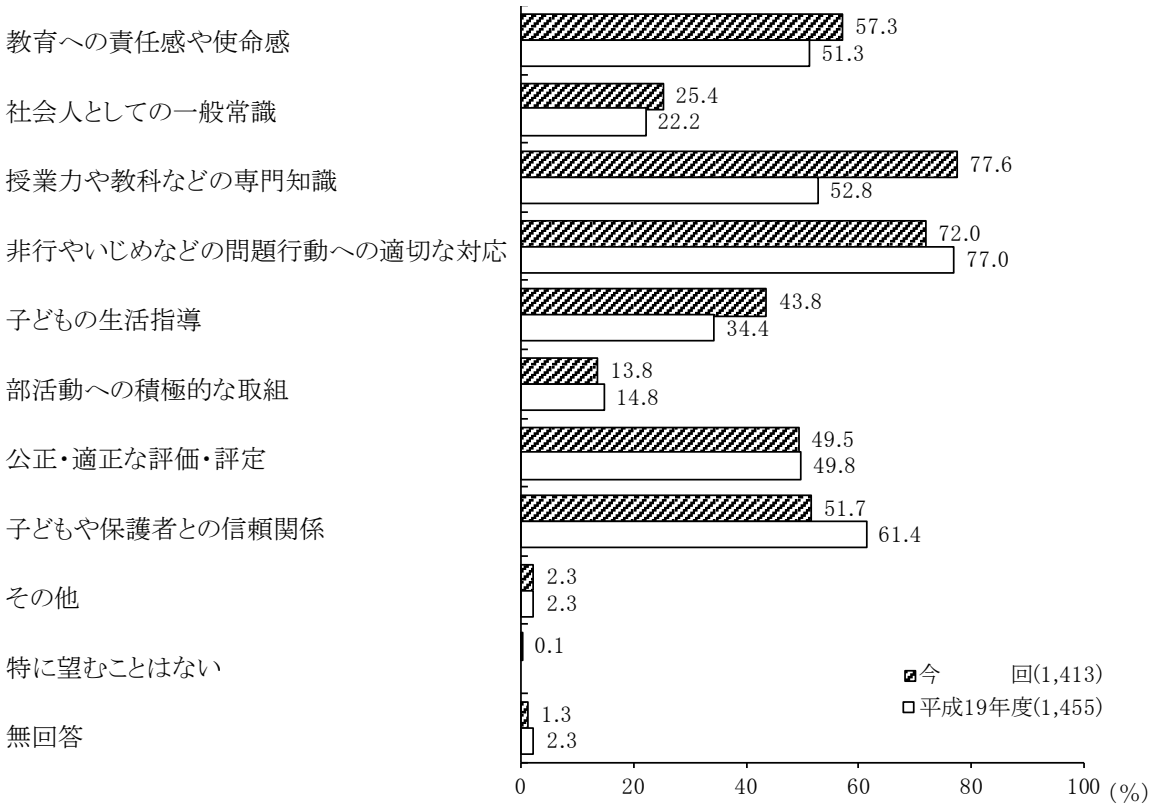
参考（小学生・中学生調査）教員の指導に望むこと



教員の指導に望むことについて、平成 19 年度調査と比較すると、保護者では「授業力や教科などの専門知識」が 13.4 ポイント、「子どもの生活指導」が 13.3 ポイント、「社会人としての一般常識」が 10.2 ポイント、「教育への責任感や使命感」が 6.3 ポイント増加しているのに対して、「子どもや保護者との信頼関係」が 9.9 ポイント、「非行やいじめなどの問題行動への適切な対応」が 8.6 ポイント、「公正・適正な評価・評定」が 2.7 ポイント、「部活動への積極的な取組」が 1.4 ポイント減少している。



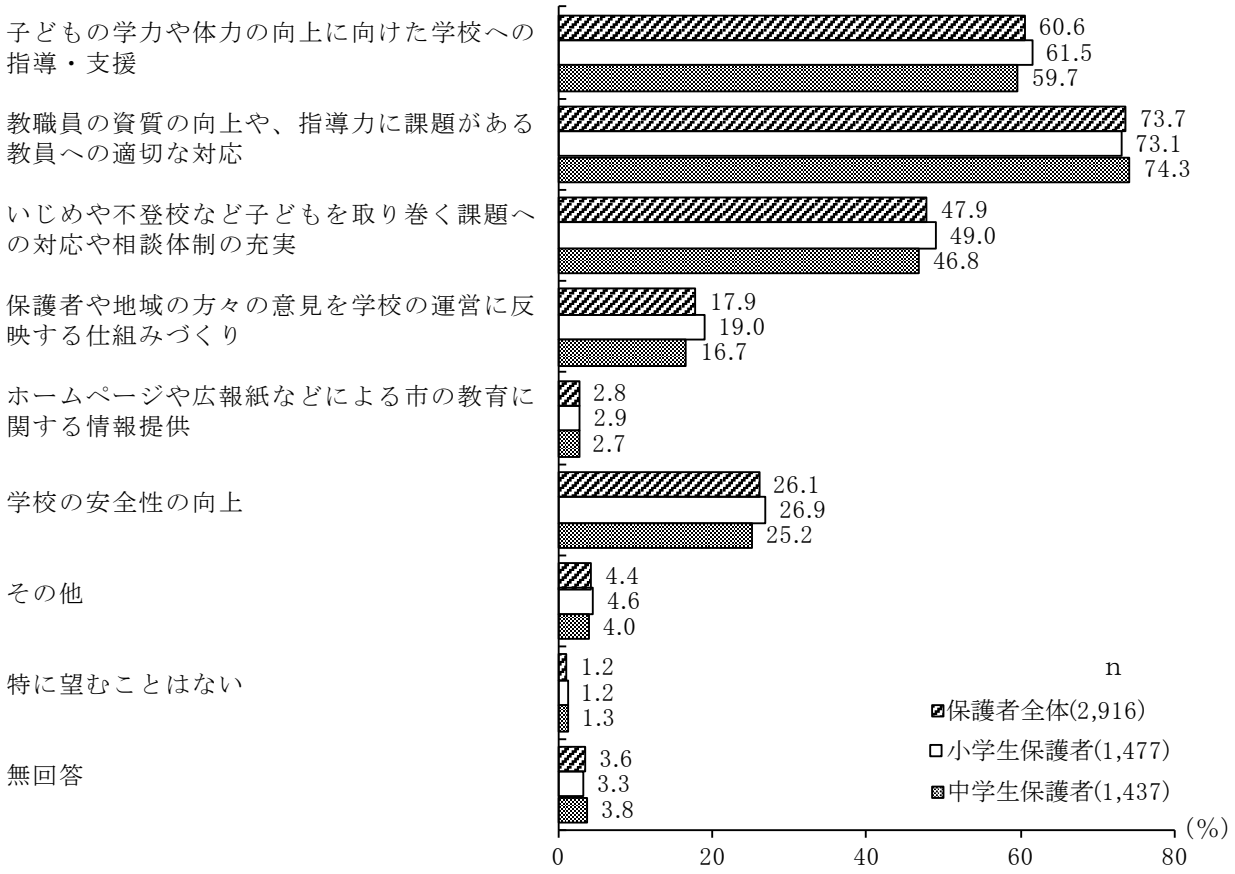
教員の指導に保護者が望んでいると思うことについて、平成 19 年度調査と比較すると、「授業力や教科などの専門知識」が 24.8 ポイント、「子どもの生活指導」が 9.4 ポイント、「教育への責任感や使命感」が 6.0 ポイント、「社会人としての一般常識」が 3.2 ポイント増加しているのに対して、「子どもや保護者との信頼関係」が 9.7 ポイント、「非行やいじめなどの問題行動への適切な対応」が 5.0 ポイント、「部活動への積極的な取組」が 1.0 ポイント、「公正・適正な評価・評定」が 0.3 ポイント減少している。



※平成 19 年度調査では「特に望むことはない」の選択肢はない

（4） 教育委員会に望むこと（３つまで複数回答）

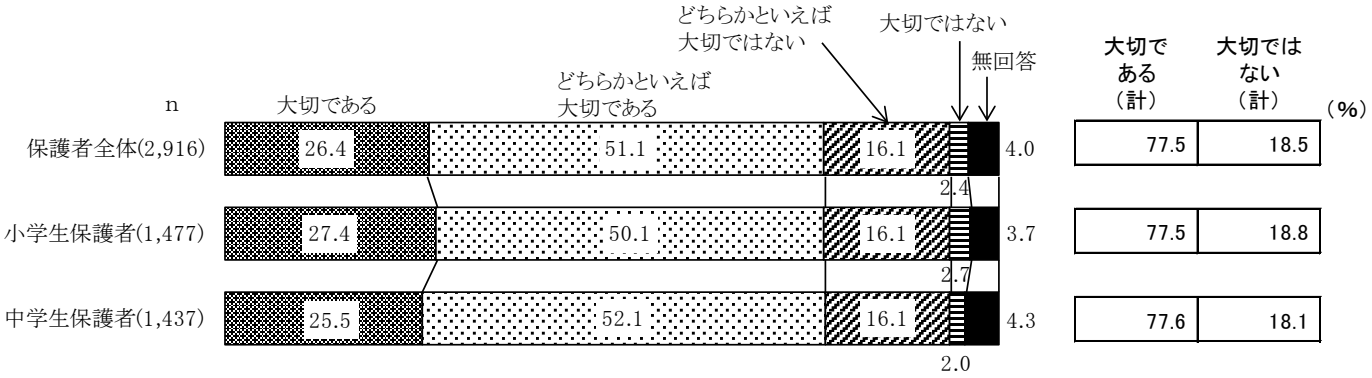
保護者に教育委員会に望むことを聞いたところ、「教職員の資質の向上や、指導力に課題がある教員への適切な対応」（73.7%）が最も多く、次いで「子どもの学力や体力の向上に向けた学校への指導・支援」（60.6%）、「いじめや不登校など子どもを取り巻く課題への対応や相談体制の充実」（47.9%）、「学校の安全性の向上」（26.1%）の順となっている。



（５） 小中一貫教育は大切だと思うか

保護者に小中一貫教育は大切だと思うかについて聞いたところ、「大切である」と「どちらかといえば大切である」を合わせた『大切である（計）』は 77.5%と高くなっている。

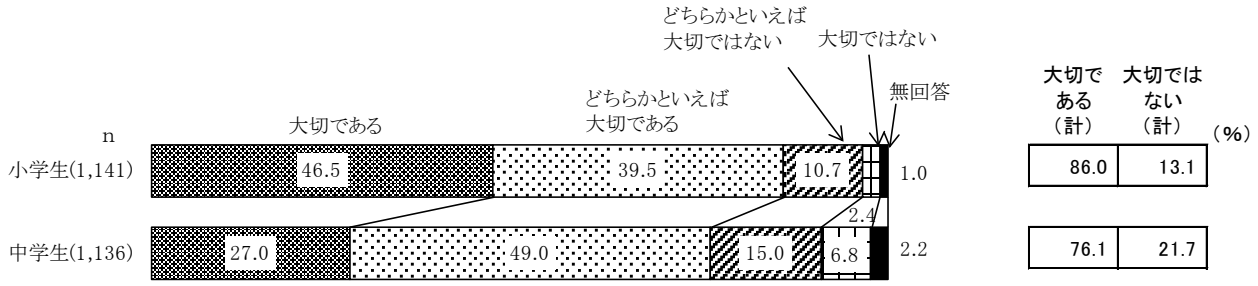
一方、「大切ではない」（2.4%）と「どちらかといえば大切ではない」（16.1%）を合わせた『大切ではない（計）』は 18.5%となっている。



【小中一貫教育】

国の学習指導要領の実施にあわせ、横浜市の教育内容や方法に係るスタンダードとして「横浜版学習指導要領」を作成し、義務教育９年間の連続した学びを実現する横浜型小中一貫教育を推進しています。

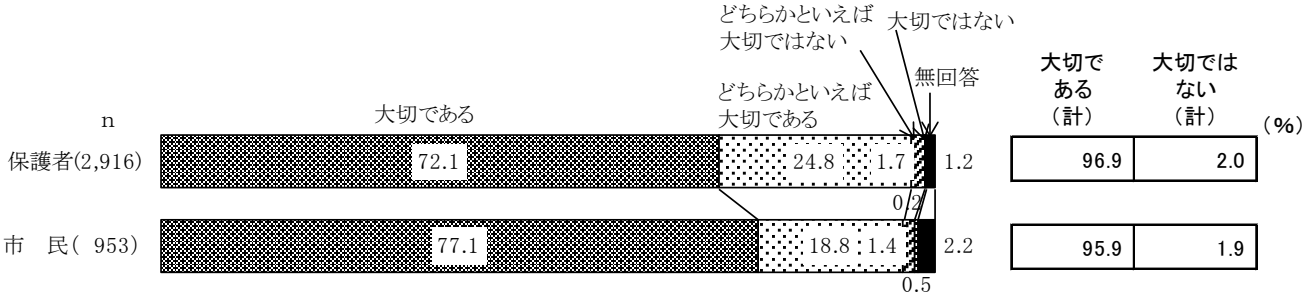
参考（小学生・中学生調査）小中一貫教育は大切だと思うか



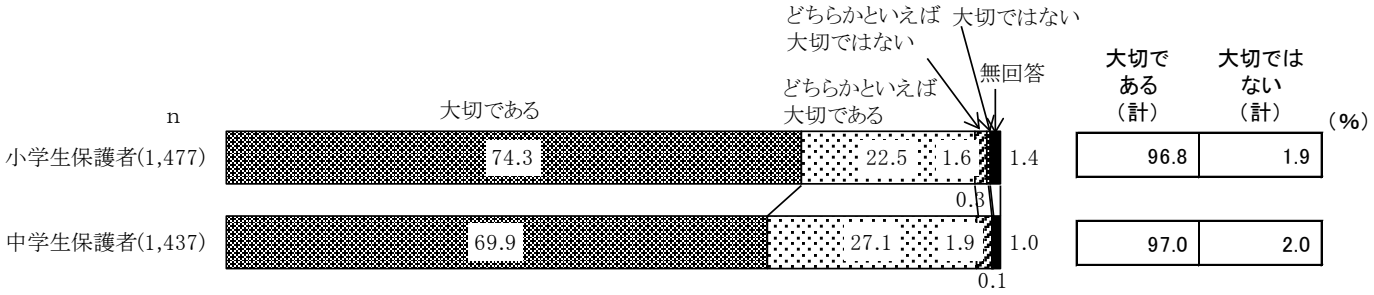
（６） 地域の伝統文化を学ぶことの重要性

地域の伝統文化を学ぶことの重要性について聞いたところ、「大切である」と「どちらかといえば大切である」を合わせた『大切である（計）』が保護者 96.9%、市民 95.9%となっている。このうち「大切である」は、保護者（72.1%）、市民（77.1%）となっている。

一方、「大切ではない」（保護者 0.2%、市民 0.5%）と「どちらかといえば大切ではない」（保護者 1.7%、市民 1.4%）を合わせた『大切ではない（計）』は、保護者 2.0%、市民 1.9%となっている。

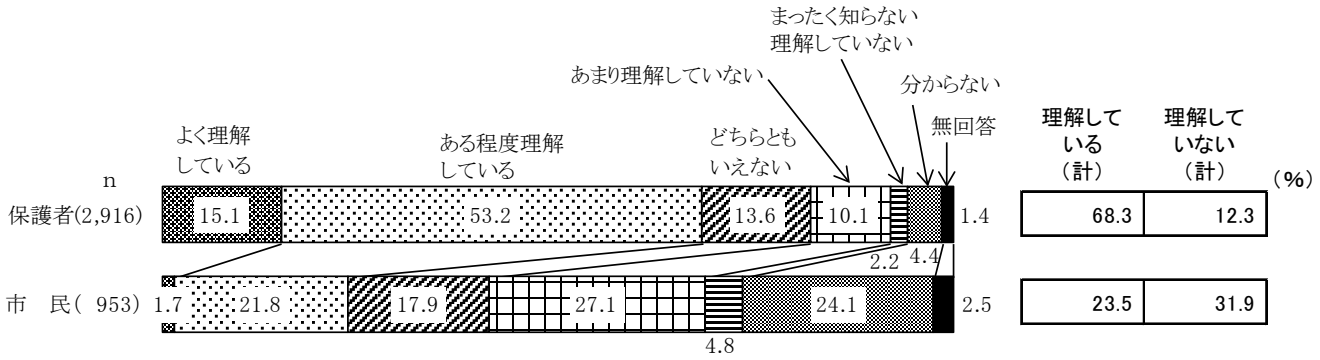


小学生保護者、中学生保護者別にみると、『大切である（計）』、『大切ではない（計）』ともに、ほぼ同じ割合となっているが、『大切である（計）』のうち「大切である」は、小学生保護者（74.3%）のほうが中学生保護者（69.9%）よりも 4.4 ポイント高くなっている。



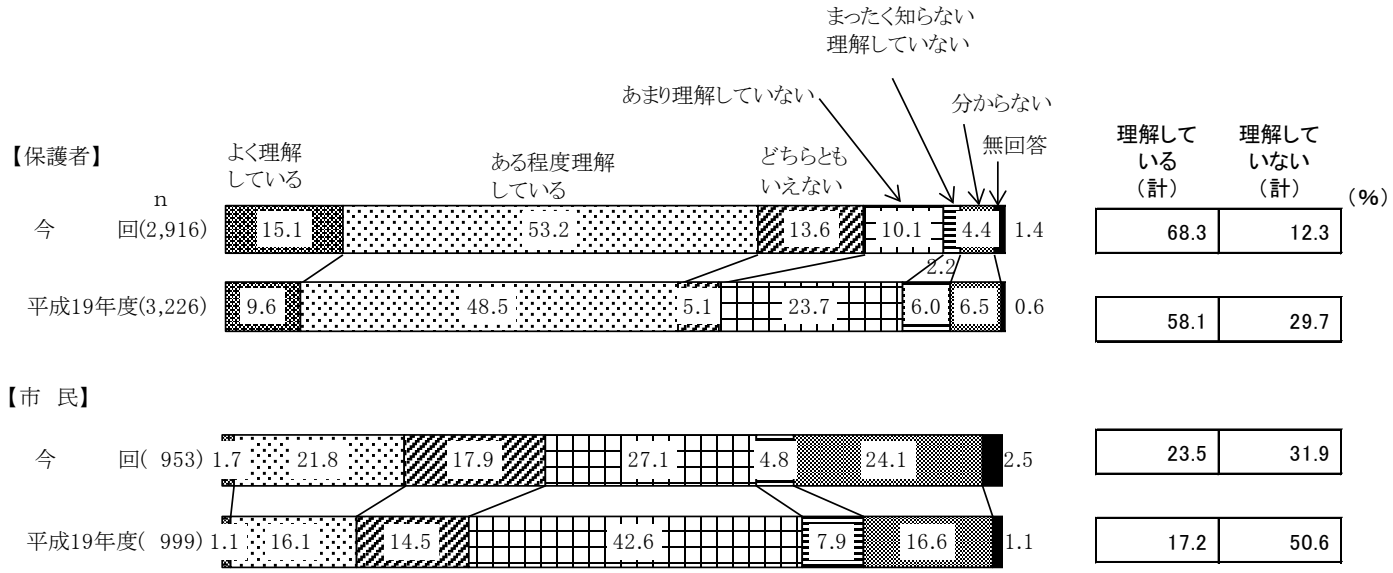
（7） 子どものインターネットのモラル・マナー理解度

保護者と市民に、子どものインターネットのモラル・マナー理解度について聞いたところ、「よく理解している」（保護者 15.1%、市民 1.7%）と「ある程度理解している」（同 53.2%、同 21.8%）を合わせた『理解している（計）』は保護者で 68.3%、市民では 23.5%となっている。一方、「まったく理解していない」（保護者 2.2%、市民 4.8%）と「あまり理解していない」（保護者 10.1%、市民 27.1%）を合わせた『理解していない（計）』は保護者では 12.3%、市民では 31.9%となっている。



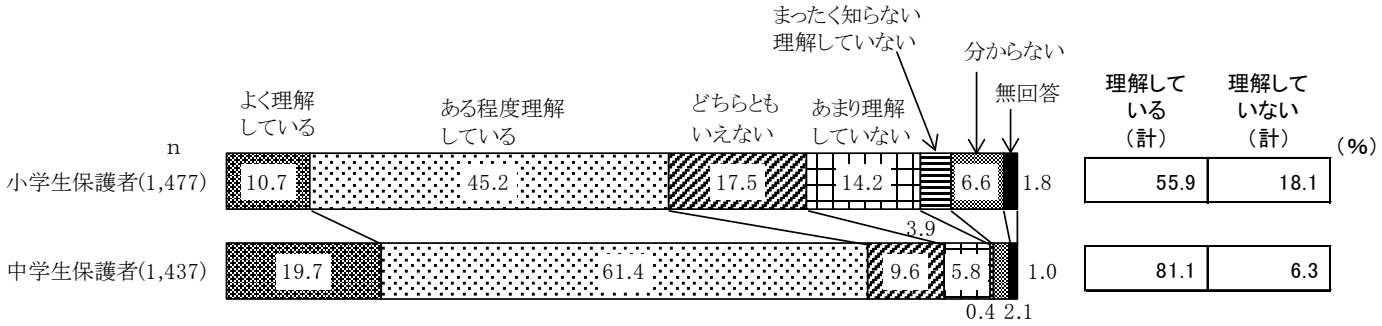
平成 19 年度調査と比較すると、『理解している（計）』は、保護者では 10.2 ポイント、市民では 6.3 ポイント増加している。

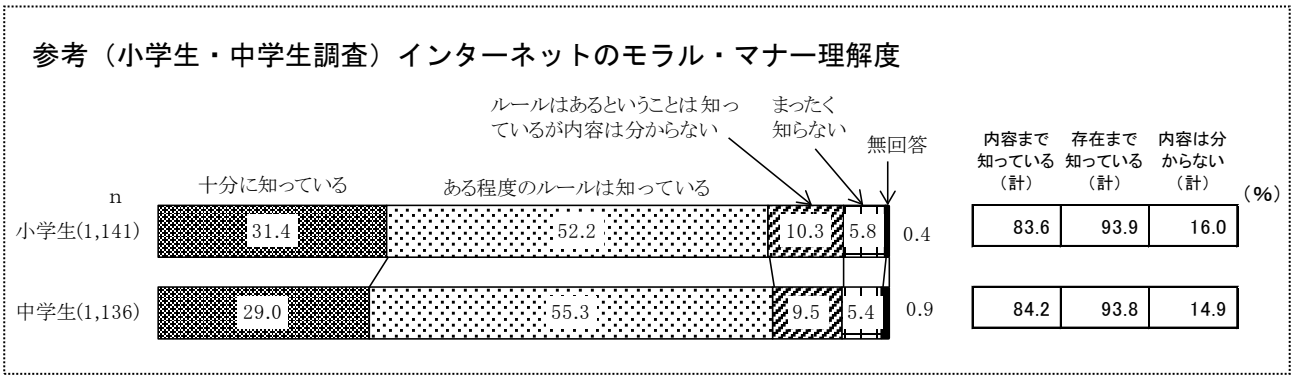
一方、『理解していない（計）』は、保護者では 17.4 ポイント、市民では 18.6 ポイント減少している。



小学生保護者、中学生保護者別にみると、『理解している（計）』は、中学生保護者（81.1%）のほうが小学生保護者（55.9%）よりも 25.2 ポイント高くなっている。

一方、『理解していない（計）』は、小学生保護者（18.1%）のほうが中学生保護者（6.3%）よりも 11.8 ポイント高くなっている。





（8） 子どもの体力の課題の理解と取組

保護者に、子どもの体力の課題の理解と取組について聞いたところ、「自分の課題を理解し、運動に取り組んでいる」は 33.7%、「自分の課題は理解しているが、何も取り組んでいない」が 33.0%となっており、これらを合わせた『課題を理解している（計)』が 66.8%となっている。

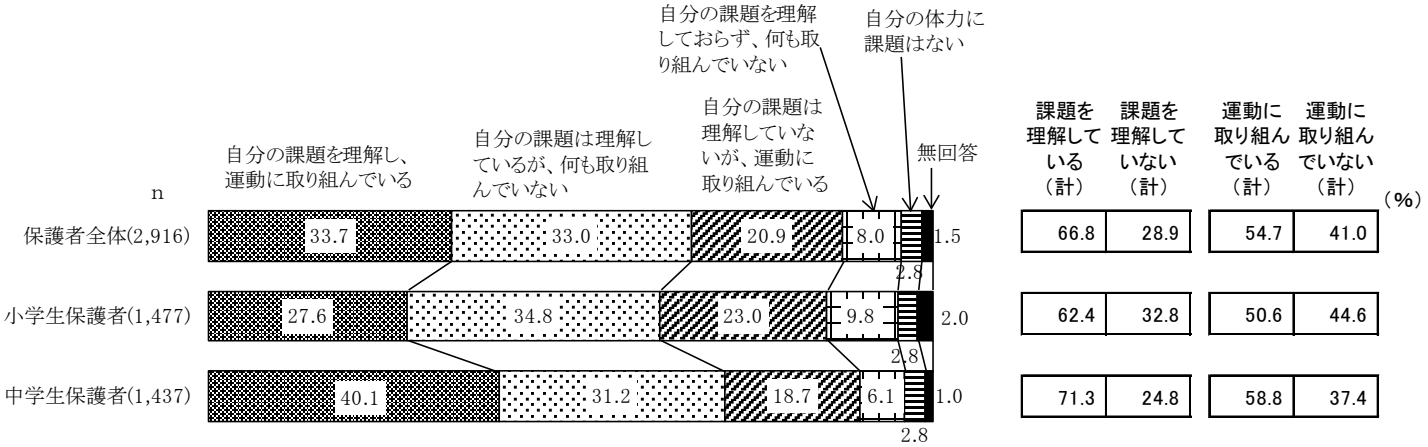
一方、「自分の課題を理解していないが、運動に取り組んでいる」は 20.9%、「自分の課題を理解しておらず、何も取り組んでもいない」は 8.0%となっており、これらを合わせた『課題を理解していない（計)』は 28.9%となっている。

また、「自分の課題は理解しているが、何も取り組んでいない」と「自分の課題を理解しておらず、何も取り組んでもいない」を合わせた『運動に取り組んでいない（計)』は 41.0%となっている。

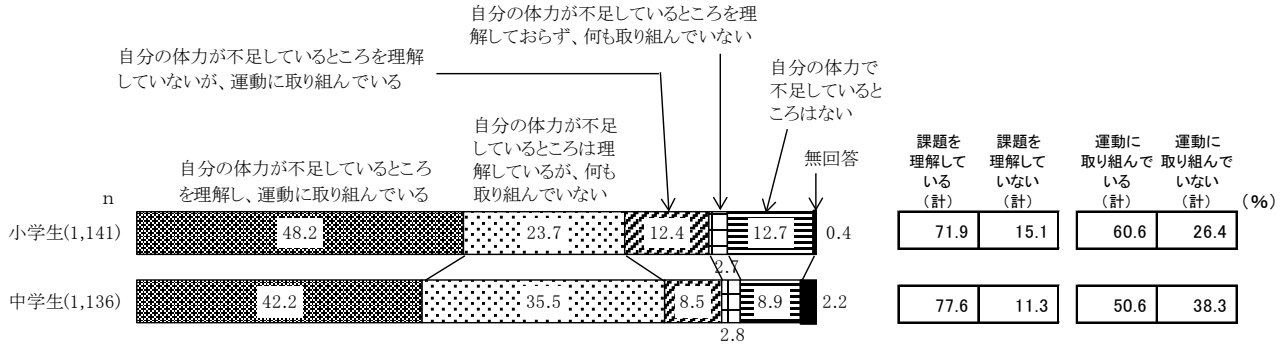
なお、「自分の体力に課題はない」は 2.8%となっている。

小学生保護者、中学生保護者別にみると、『課題を理解している（計)』は、中学生保護者（71.3%）のほうが小学生保護者（62.4%）よりも 8.9 ポイント高くなっている。

『運動に取り組んでいない（計)』は、小学生保護者（44.6%）のほうが中学生保護者（37.3%）よりも 7.2 ポイント高くなっている。

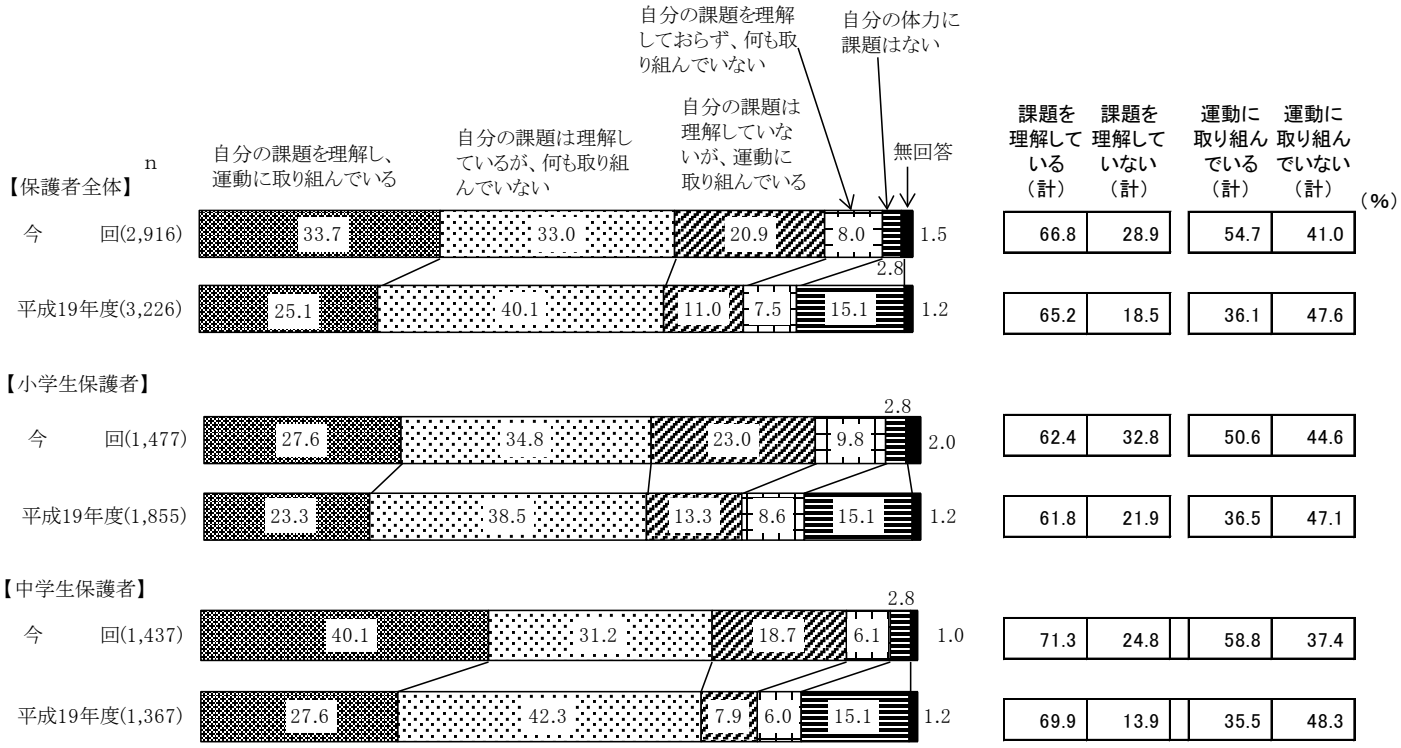


参考（小学生・中学生調査）体力の課題の理解と取組



平成 19 年度調査と比較すると、『課題を理解している（計)』は、保護者全体で 1.6 ポイント、小学生保護者で 0.6 ポイント、中学生保護者では 1.4 ポイント増加している。

『運動に取り組んでいる（計)』は、保護者全体で 18.6 ポイント、小学生保護者で 14.1 ポイント、中学生保護者では 23.3 ポイント増加している。

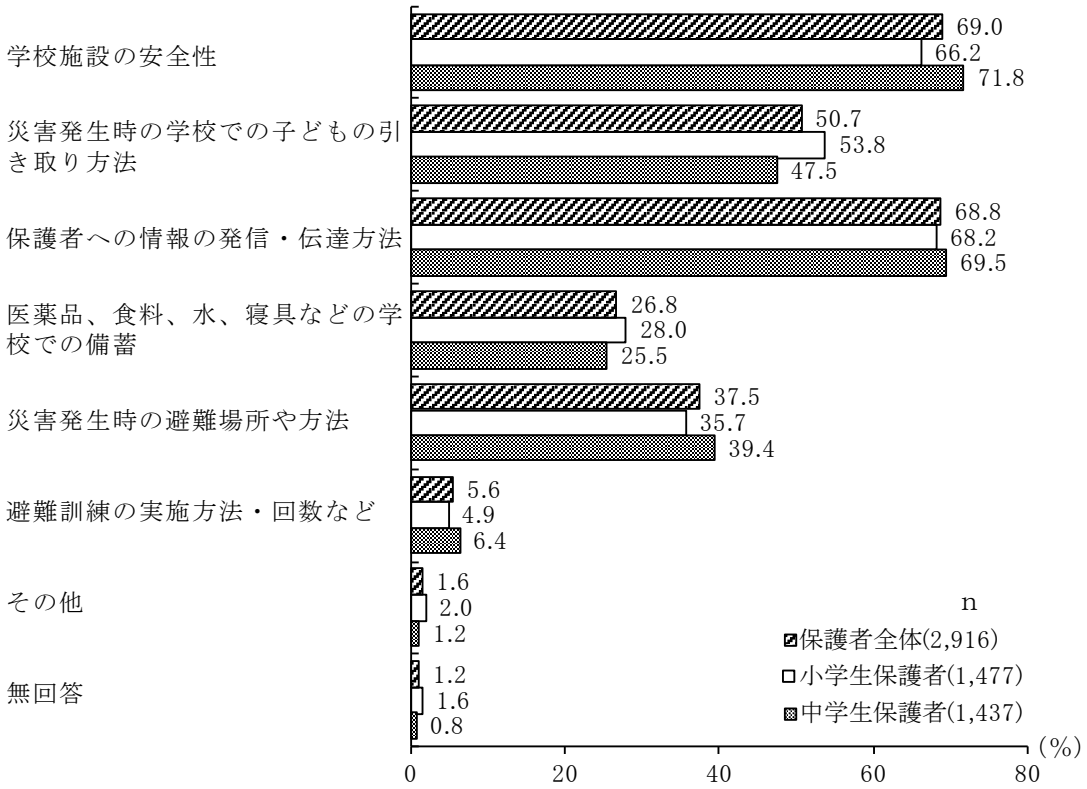


（９） 関心のある学校の災害対策・対応（３つまでの複数回答）

保護者に、関心のある学校の災害対策・対応について聞いたところ、「学校施設の安全性」の割合が69.0%と最も多く、次いで「保護者への情報の発信・伝達方法」（68.8%）、「災害発生時の学校での子どもの引き取り方法」（50.7%）となっている。

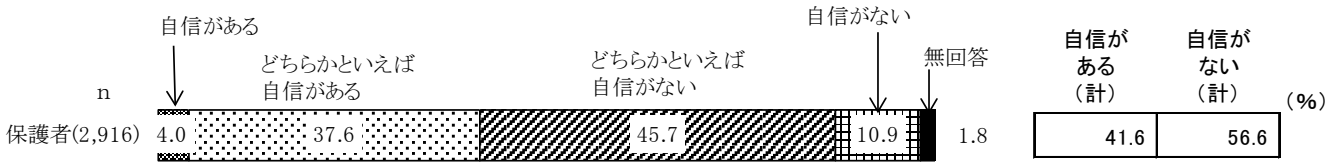
一方、「避難訓練の実施方法・回数など」は5.6%となっている。

小学生保護者、中学生保護者別にみると、「学校施設の安全性」は、小学生保護者（66.2%）より中学生保護者（71.8%）のほうが5.6ポイント高くなっており、「災害発生時の学校での子どもの引き取り方法」は、小学生保護者（53.8%）の方が中学生保護者（47.5%）より6.3ポイント高くなっている。



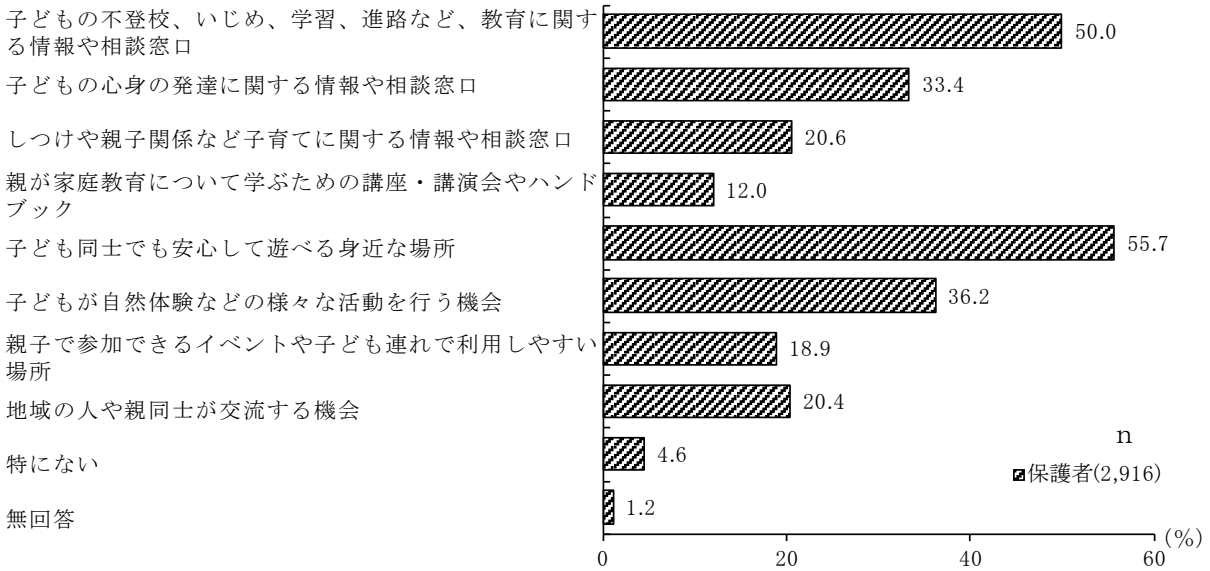
(10)　家庭での教育に自信があるか

保護者に、家庭での教育に自信があるか聞いたところ、「自信がある」（4.0%）と「どちらかといえば自信がある」（37.6%）を合わせた『自信がある（計）』は 41.6%で、「自信がない」（10.9%）と「どちらかといえば自信がない」（45.7%）を合わせた『自信がない（計）』は 56.6%となっている。



(11)　家庭での教育に必要なこと（複数回答）

保護者に、家庭での教育に必要なことを聞いたところ、「子ども同士でも安心して遊べる身近な場所」（55.7%）が最も多く、次いで「子どもの不登校、いじめ、学習、進路など、教育に関する情報や相談窓口」（50.0%）、「子どもが自然体験などの様々な活動を行う機会」（36.2%）、「子どもの心身の発達に関する情報や相談窓口」（33.4%）の順となっている。

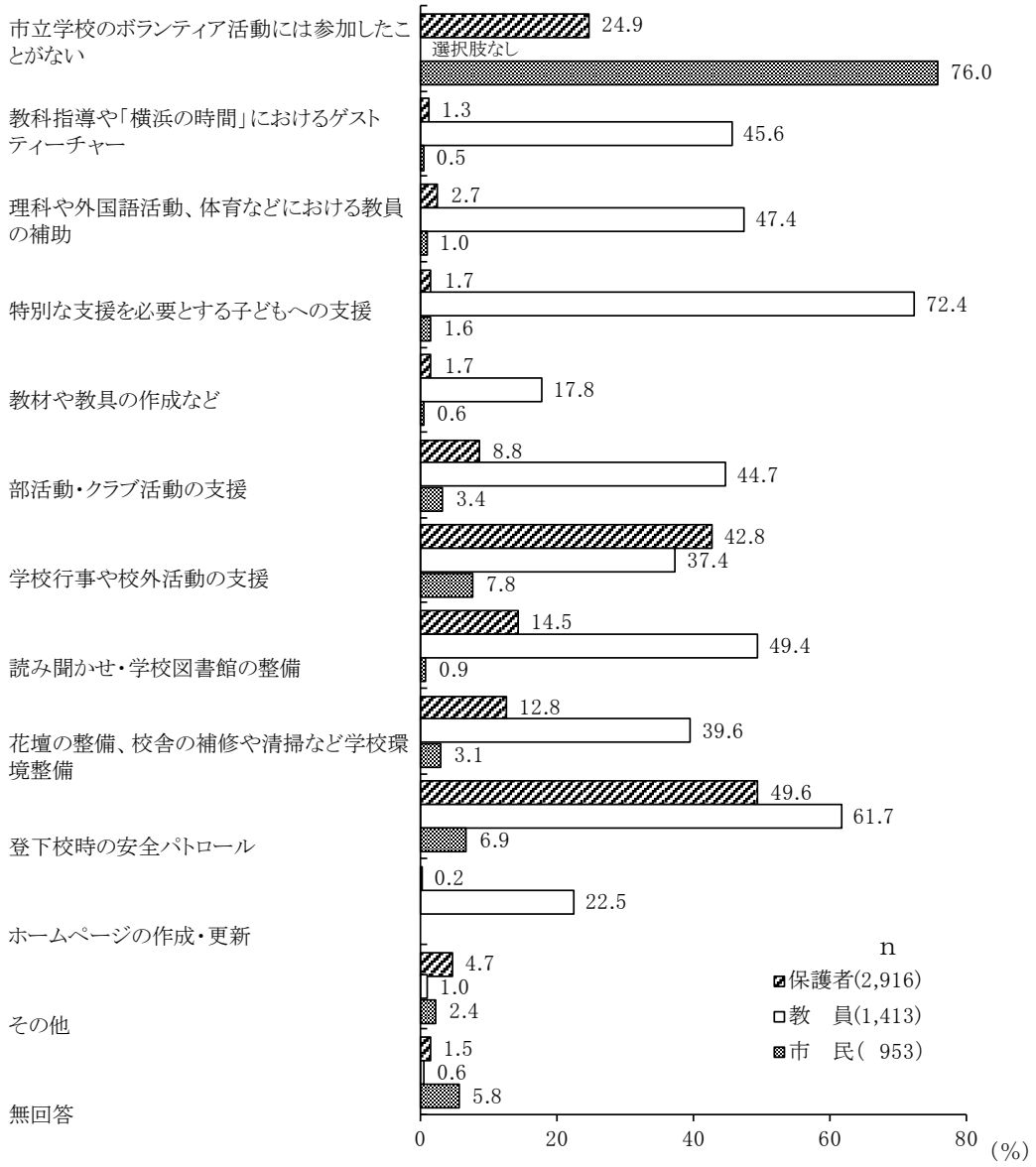


(12)　学校教育ボランティアの活動経験・学校教育ボランティアに求める支援内容（複数回答）

保護者、市民に、横浜市立学校で行ったことのあるボランティア活動を聞いたところ、保護者は「登下校時の安全パトロール」（49.6%）が最も多く、次いで「学校行事や校外活動の支援」（42.8%）、「読み聞かせ・学校図書館の整備」（14.5%）、「花壇の整備、校舎の補修や清掃など学校環境整備」（12.8%）の順となっている。また、「市立学校のボランティア活動には参加したことがない」は 24.9%であった。

市民は「市立学校のボランティア活動には参加したことがない」が 76.0%となっている。

教員に学校教育ボランティアに求める支援内容を聞いたところ、「特別な支援を必要とする子供への支援」（72.4%）が最も多く、次いで「登下校時の安全パトロール」（61.7%）、「読み聞かせ・学校図書館の整備」（49.4%）、「理科や外国語活動、体育などにおける教員の補助」（47.4%）、「教科指導や「横浜の時間」におけるゲストティーチャー」（45.6%）、「部活動・クラブ活動の支援」（44.7%）の順となっている。

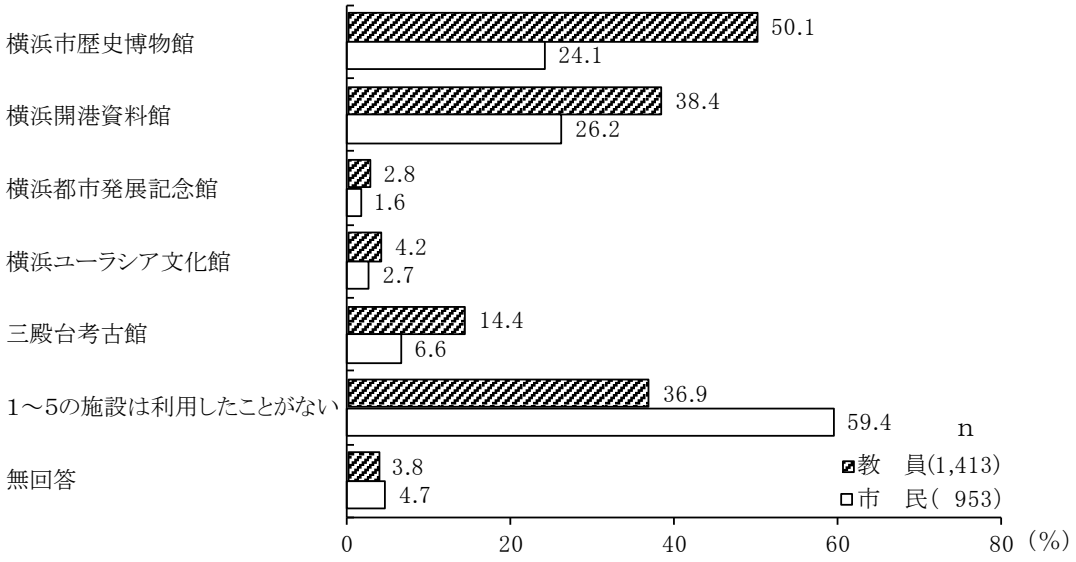


(13)　利用したことのある文化施設（複数回答）

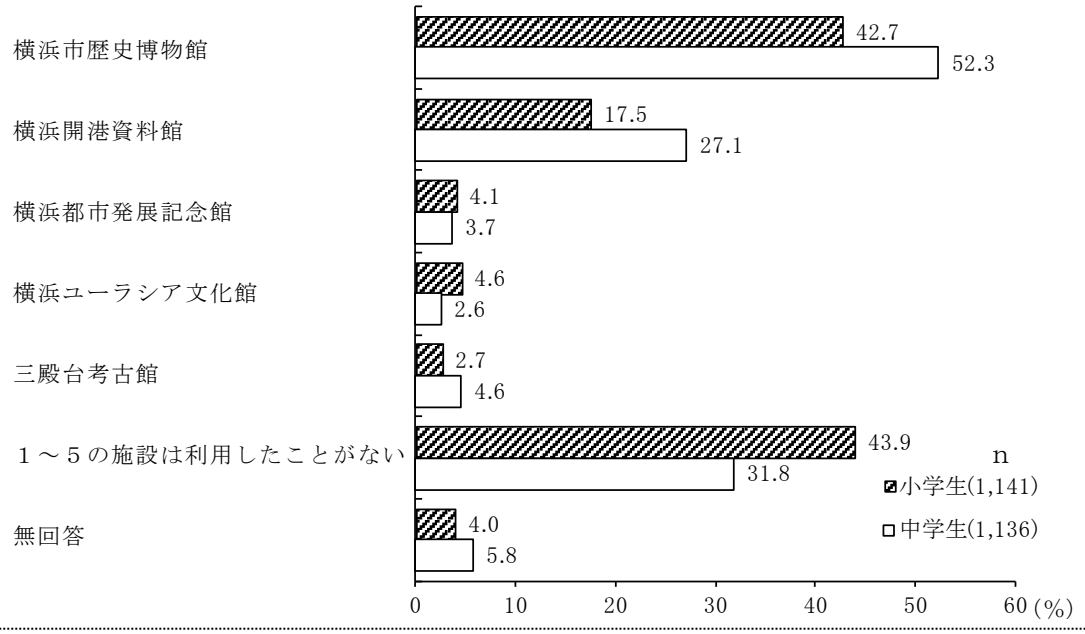
教員、市民に、利用したことのある文化施設を聞いたところ、教員は「横浜市歴史博物館」（50.1%）が最も多く、次いで「横浜開港資料館」（38.4%）、「三殿台考古館」（14.4%）となっている。

市民は「横浜開港資料館」（26.2%）が最も多く、次いで「横浜市歴史博物館」（24.1%）、「三殿台考古館」（6.6%）となっている。

一方、「１～５の施設は利用したことがない」は教員で 36.9%、市民で 59.4%であった。



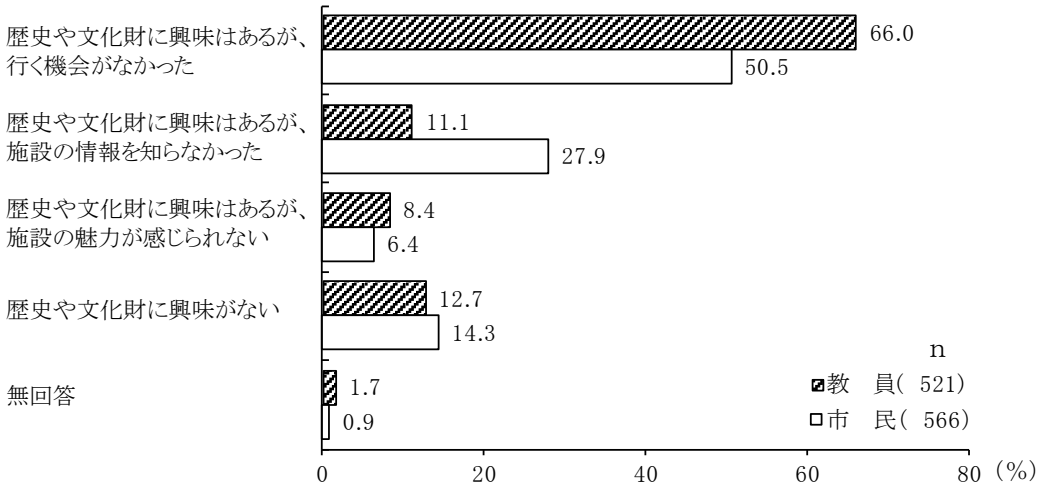
参考（小学生・中学生調査）利用したことのある文化施設



(14)　文化施設に対する興味

(13) 利用したことのある文化施設で、「１～５の施設は利用したことがない」と回答した教員、市民に、文化施設を利用しなかった理由を聞いたところ、教員、市民ともに「歴史や文化財に興味はあるが、行く機会がなかった」（教員 66.0%、市民 50.5%）が最も多かった。

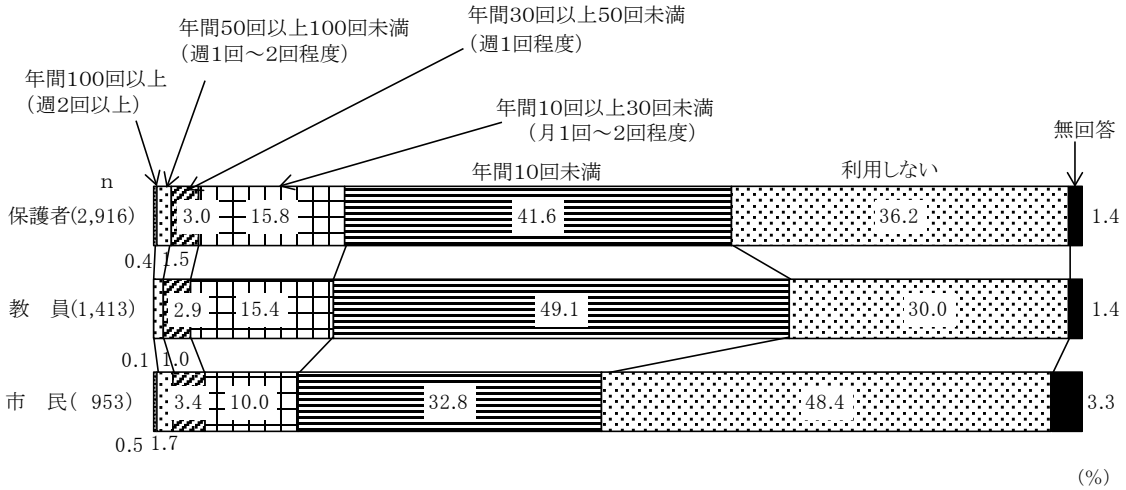
また、「歴史や文化財に興味はあるが、施設の情報を知らなかった」は、教員（11.1%）より市民（27.9%）のほうが 16.8 ポイント高くなっている。



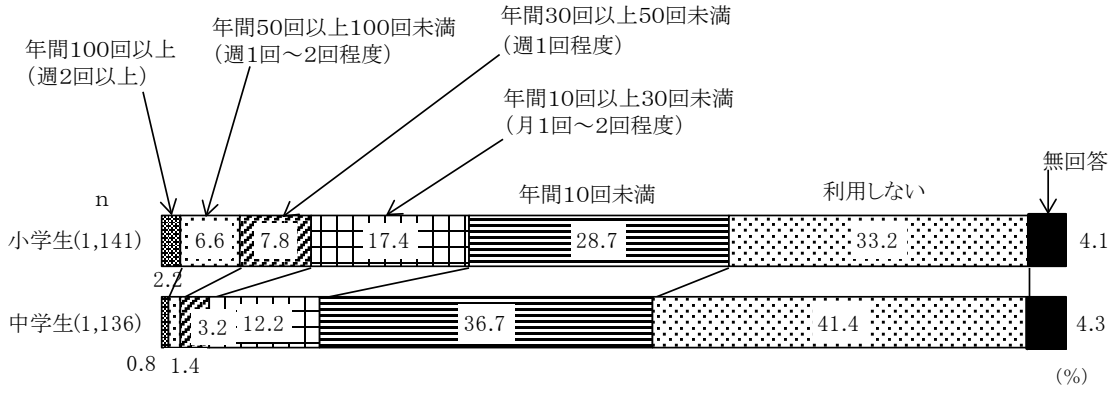
(15)　市立図書館の利用頻度

市立図書館の利用頻度について聞いたところ、保護者、教員、市民ともに「年間 10 回未満」（保護者 41.6%、教員 49.1%、市民 32.8%）が最も多く、次いで「年間 10 回以上 30 回未満（月 1 回～２回程度）」（保護者 15.8%、教員 15.4%、市民 10.0%）、「年間 30 回以上 50 回未満（週 1 回程度）」（保護者 3.0%、教員 2.9%、市民 3.4%）となっている。

一方、「利用しない」と回答したのは保護者で 36.2%、教員で 30.0%、市民で 48.4%であった。



参考（小学生・中学生調査）市立図書館の利用頻度



参考資料

調査項目の構成

項目		小学生	中学生	保護者	教員	市民
属性	(調査票を持ち帰った子どもの)学年	問1(1)	問1(1)	問1(1)		
	性別	問1(2)	問1(2)	問1(2)	問1(1)	問1(1)
	年齢			問1(3)	問1(2)	問1(2)
	勤務する学校種				問1(3)	
	役職等				問1(4)	
	通学する行政区	問1(3)	問1(3)		問1(5)	
	居住する行政区			問1(4)		問1(4)
	(調査票を持ち帰った)小・中学生以外の子どもの有無			問1(5)		問1(3)
学校に行くのが楽しいか		問2	問2			
学校の授業は分かりやすいか		問3	問3			
学校教育で重要なこと				問2	問2	問2
学習理解度の自覚		問4	問4	問3		
学習理解度に対応した指導					問3	
教員の指導に対する満足度		問5	問5	問4		
教員の指導に望むこと		問6	問6	問5		
保護者が教員に望んでいると思うこと					問4	
教育委員会に望むこと				問6		
小中一貫教育は大切だと思うか		問7	問7	問7		
小中一貫教育が大切だと思う理由		問7付問1	問7付問1	問7付問1		
『横浜の時間』の認知度				問8		問3
『横浜の時間』を通して子どもに身に付けてほしい力				問9		問4
『横浜の時間』を通して身に付いたと思う力		問8	問8			
『横浜の時間』を進めていく上で難しいこと					問5	
(小学生の)英語学習の重要性		問9		問10	問6	問5
英語教育の効果				問11	問7	問6
国際理解教室や英語活動についてどう思うか		問10				
国際理解教室や英語活動の効果			問9			
地域の伝統文化を学ぶ機会		問11	問10			
地域の伝統文化を学ぶことの重要性				問12		問7
キャリア教育に期待すること				問13		問8
キャリア教育を通じて育てたいこと					問8	
キャリア教育の効果		問12	問11			
読書の習慣		問13	問12			
読解力		問14	問13			
情報機器を活用した授業の有無		問15	問14		問9	
情報機器による情報収集・選択の指導					問10	
理科支援員の支援の有無		問16			問11	
理科支援員がいることで変わったこと		問16付問1			問11付問1	
いじめなどの相談相手や相談先				問14		
カウンセラーや相談機関の利用経験		問17	問15			
相談して感じたこと		問17付問1	問15付問1			
相談しなかった理由		問17付問2	問15付問2			
子どもが社会ルール・マナーを守っているか				問15	問12	問9
インターネットのモラル・マナーの指導					問13	
(子どもの)インターネットのモラル・マナーの理解度		問18	問16	問16		問10
インターネット利用における家庭での約束・ルール		問19	問17	問17		
子どもの体力の改善						問11
子どもの体力の課題の理解と指導					問14	
子どもの体力の課題の理解と取組		問20	問18	問18		
魅力を感じる高校の専門コース			問19	問19		
学校が組織として機能しているか				問20	問15	

項目	小学生	中学生	保護者	教員	市民
学校評価の認知度			問21		
登下校時や学校での子どもの安全に対する不安			問22		
登下校時で怖いと思った経験	問21	問20			
学校防災計画(防災マニュアル)の認知度				問16	
東日本大震災への対応における課題				問17	
関心のある学校の災害対策・対応			問23		
災害発生時の行動	問22	問21			
通学区域制度についてどう思うか			問24	問18	問12
小中学校の配置における問題点			問25	問19	問13
希望する学校へ就学することについて			問26	問20	問14
希望する学校へ就学することが望ましい理由			問26付問1	問20付問1	問14付問1
希望する学校へ就学することが望ましくない理由			問26付問2	問20付問2	問14付問2
指定された中学校以外に通いたい市立中学校はあったか		問22			
希望する学校へ就学することについて	問23				
指定された中学校以外の市立中学校に通いたい理由	問23付問1	問22付問1			
小規模校についてどう思うか			問27	問21	問15
小規模校が望ましい理由			問27付問1	問21付問1	問15付問1
小規模校が望ましくない理由			問27付問2	問21付問2	問15付問2
学校統合の評価			問28	問22	問16
現在の学期制			問29	問23	
学校別の学期制選択についてどう思うか			問30	問24	
よいと思う学期制			問31	問25	
二学期制がよい理由			問31付問1	問25付問1	
三学期制がよい理由			問31付問2	問25付問2	
「学校週5日制」の趣旨が実現されているか			問32	問26	問17
土曜日に授業を実施した方がよいか			問33	問27	問18
土曜日に授業を実施しない方がよい理由			問33付問1	問27付問1	問18付問1
土曜日に授業を実施した方がよい理由			問33付問2	問27付問2	問18付問2
土曜日の昼間の過ごし方	問24	問23			
特別支援教育の推進に大切なこと			問34	問28	問19
特別支援学校の役割として大切なこと			問35	問29	問20
家庭での教育に自信があるか			問36		
家庭における教育力				問30	問21
家庭での教育に必要なこと			問37		
家庭教育や家庭を取り巻く社会状況に関する課題				問31	問22
地域に開かれた学校にするために大切なこと			問38	問32	問23
学校教育ボランティアの活動経験			問39		問24
学校教育ボランティアの活動に参加したことがない理由			問39付問1		問24付問1
学校教育ボランティアをした学校との関係			問39付問2		問24付問2
学校教育ボランティアに求める支援内容				問33	
「学校・地域コーディネーター」に期待する役割			問40	問34	問25
教育主担者(1)規律ある生活や基本的な生活習慣			問41(1)	問35(1)	問26(1)
教育主担者(2)欲望を抑えたり、我慢したりする気持ち			問41(2)	問35(2)	問26(2)
教育主担者(3)日常生活に必要な基本的な知識や技能			問41(3)	問35(3)	問26(3)
教育主担者(4)自分で学んでいくための方法や意欲			問41(4)	問35(4)	問26(4)
教育主担者(5)社会生活を営む上で必要な態度や能力			問41(5)	問35(5)	問26(5)
教育主担者(6)社会のルールを守ること			問41(6)	問35(6)	問26(6)
教育主担者(7)食生活			問41(7)	問35(7)	問26(7)
利用したことのある文化施設	問25	問24		問36	問27
文化施設に対する興味	問25付問1	問24付問1		問36付問1	問27付問1
文化施設の利用促進のために必要な取組				問37	問28
市立図書館の利用頻度	問26	問25	問42	問38	問29
利用したいと思う図書館	問27	問26	問43	問39	問30
知っている、または利用したことのある図書館サービス			問44	問40	問31
鉄道駅での図書館サービスで必要とするもの			問45	問41	問32

横浜市教育意識調査　概要版

平成24年３月発行

編集・発行者　横浜市教育委員会事務局　職員課

〒231－0017　横浜市中区港町１丁目１番地

TEL　０４５（６７１）３６１５

FAX　０４５（６６３）５５４７

一生学ぼう　一緒に学ぼう　ぼくらの横浜で

横浜教育ビジョン

あなたの毎日に、エコをプラスしよう。
Yokohama エコ活。

G30 のその先へ
ヨコハマ3R夢!
スリム